

---

---

# 平成20年度 事業報告書

(平成20年4月1日～平成21年3月31日)



学校法人 東京女子医科大学

---

---

## 目 次

|                                |    |
|--------------------------------|----|
| ．ごあいさつ                         | 1  |
| ．法人の概要                         | 2  |
| 1．理念・目的                        | 2  |
| (1) 設立目的                       | 2  |
| (2) 中長期ビジョン                    | 3  |
| (3) 沿革（簡略）                     | 3  |
| (4) 組織                         | 5  |
| (5) 役員                         | 6  |
| (6) 施設等所在住所                    | 7  |
| 2．設置する学校・学部・学科等                | 8  |
| (1) 大学・大学院                     | 8  |
| (2) 専修学校                       | 8  |
| 3．学部・学科等入学定員、学生数の状況            | 9  |
| (1) 入学定員、入学者数、収容定員、学生数         | 9  |
| (2) 学生数の推移                     | 9  |
| (3) 入学試験、国家試験、卒業進路             | 10 |
| 4．大学院                          | 15 |
| (1) 学位授与状況                     | 15 |
| 5．社会人教育                        | 16 |
| (1) バイオメディカルカリキュラム（先端生命医科学研究所） | 16 |
| (2) 認定看護師教育センター（看護学部）          | 16 |
| 6．研究費内訳                        | 17 |
| (1) 外部資金の獲得状況                  | 17 |
| (2) 主たる公的研究事業                  | 17 |
| 7．教職員                          | 19 |
| (1) 教員数                        | 19 |
| (2) 職員数                        | 20 |
| (3) 研修生                        | 20 |
| 8．医療施設の概要                      | 21 |
| (1) 施設名                        | 21 |
| (2) 外来・入院患者数                   | 21 |

|                                   |    |
|-----------------------------------|----|
| ・事業の概要                            | 24 |
| 1．主要な事業計画に対する進捗状況                 | 24 |
| (1) 第1病棟建築工事                      | 24 |
| (2) 東京女子医科大学がんセンター                | 24 |
| (3) 東京女子医科大学・早稲田大学連携先端生命医科学研究教育施設 | 25 |
| (4) 女性医師に対する生涯研鑽のための支援            | 26 |
| (5) マスタープラン21プロジェクト               | 27 |
| 2．「教育、研究、医療、経営・管理」領域別の事業報告        | 29 |
| 【教育】                              | 29 |
| (1) 医学部                           | 29 |
| (2) 看護学部                          | 29 |
| (3) 大学院 医学研究科                     | 30 |
| (4) 大学院 看護学研究科                    | 30 |
| (5) 看護専門学校                        | 31 |
| (6) 図書館                           | 32 |
| (7) 国際交流                          | 32 |
| (8) 公開講座                          | 34 |
| 【研究】                              | 35 |
| (1) 先端生命医科学研究所                    | 35 |
| (2) 総合研究所                         | 35 |
| (3) 実験動物中央施設                      | 36 |
| (4) 国際統合医科学インスティテュート (IREIIMS)    | 36 |
| 【医療】                              | 38 |
| (1) 東京女子医科大学病院                    | 38 |
| (2) 東医療センター                       | 39 |
| (3) 成人医学センター                      | 40 |
| (4) 膠原病リウマチ痛風センター                 | 41 |
| (5) 東洋医学研究所                       | 41 |
| (6) 青山病院                          | 41 |
| (7) 女性生涯健康センター                    | 42 |
| (8) 青山女性・自然医療研究所                  | 42 |
| (9) 遺伝子医療センター                     | 43 |
| (10) 八千代医療センター                    | 43 |

|                                    |    |
|------------------------------------|----|
| 【 経営・管理 】 .....                    | 44 |
| (1) 経営計画の策定 .....                  | 44 |
| (2) 財政基盤の強化 .....                  | 45 |
| (3) 組織・制度の見直し .....                | 45 |
| (4) 人事制度の充実 .....                  | 45 |
| (5) 情報戦略の策定 .....                  | 46 |
| (6) 購買の合理化 .....                   | 46 |
| (7) ファシリティマネジメント .....             | 46 |
| 3 . 認可事項等 .....                    | 47 |
| (1) 寄附行為の一部改訂 .....                | 47 |
| (2) 大学学則、大学院学則、看護専門学校学則の一部改訂 ..... | 47 |
| <br>                               |    |
| . 財務の概要 .....                      | 49 |
| 1 . 消費収支計算書 .....                  | 49 |
| 2 . 資金収支計算書 .....                  | 50 |
| 3 . 貸借対照表 .....                    | 51 |

## . ごあいさつ

本学は建学以来「至誠と愛」の理念のもと、「最良の医療を实践する知識・技能を修め、高い人格を陶冶した医療人および医学・看護学研究者を育成する教育を行う」ことを使命として参りました。この理念と使命に基づき、平成 19 年には 2015 年（平成 27 年）までの本学の方向性を示すビジョン 2015 を策定し、教職員一同が同じ目的に向かって進んでいく中長期の指針と致しました。ここにお示しする平成 20 年度の事業報告におきましても、教育、研究、医療、経営・管理のそれぞれの分野において、理念、使命、ビジョン 2015 を踏まえ、社会への貢献に資する取り組みがなされていることがご確認いただけることと思います。



ご高承のとおり、近年の経済環境や医療を取り巻く環境はさらに厳しさを増しており、本学の経営や財務も少なからぬ影響を受けております。そのような中でも、先進的で高度な医療を安全に提供し、質の高い教育を行えるよう取り組んで参りました。是非とも本報告書をご一読いただき、今後とも本学への変わらぬご理解、ご指導、ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

学校法人 東京女子医科大学 理事長 **吉岡 博光**

## ．法人の概要

### 1．理念・目的

#### (1) 設立目的

##### < 建学の精神 >

高い知識・技能と病者を癒す心を持った医師の育成を通じて、精神的・経済的に自立し社会に貢献する女性を輩出する。

##### < 使命 >

最良の医療を実践する知識・技能を修め、高い人格を陶冶した医療人および医学・看護学研究者を育成する教育を行う。

##### < 理念 >

至 誠 と 愛

##### < 教育目標 >

###### 医学部

医師が活躍しうるさまざまな分野に必要な基本知識、技能および態度を身に体し、生涯にわたって学習しうる基礎を固める。すなわち、自主的に課題に取り組み、問題点を把握しかつ追求する姿勢を養い、医学のみならず広く関連する諸科学を照覧して理論を構築し、問題を解決できる能力および継続的に自己学習する態度を開発する。さらに、医学・医療・健康に関する諸問題に取り組むにあたっては、自然科学にとどまらず、心理的、社会的、倫理的問題等も含め、包括的にかつ創造的に論理を展開でき、様々な人々と対応できる全人的医人としての素養を涵養する。

###### 看護学部

1. 豊かな人間性を養い、生活者としての人間を理解する基礎能力を養う。
2. 看護実践に必要な科学的思考および看護の基礎技術を身につけ、人間関係を基盤として、健康問題を解決する能力を養う。
3. 社会情勢の変化に応じて、保健・医療・福祉チームの中で主体的かつ協調的に看護の役割を果たすとともに、現状を変革する能力を養う。
4. 研究の基礎能力を養う。
5. 専門職者として自己の能力を評価し、自己成長できる基盤を養う。
6. 国際的な視野に立って活動できる基礎能力を養う。

## 看護専門学校

1. 生命の尊さを認識し、人間を身体的、精神的、社会的側面から統合的な存在として理解する能力を身につける。
2. 人間の健康のあらゆる段階を理解し、看護に必要な基礎知識を活用し判断能力、応用力、問題解決能力を身につける。
3. 保健医療福祉における看護の機能と役割について理解を深めることができる。
4. 看護について継続して追求する姿勢を身につける。
5. 調和のとれた社会人として教養を身につける。
6. 個性と自主性を重んじ、自己成長できる基礎を身につける。

## (2) 中長期ビジョン

## TWMU ビジョン 2015

先進的、全人的かつ安全な医療の追求を通じて、

ともに、世の人々の健康に貢献するひとを育成する

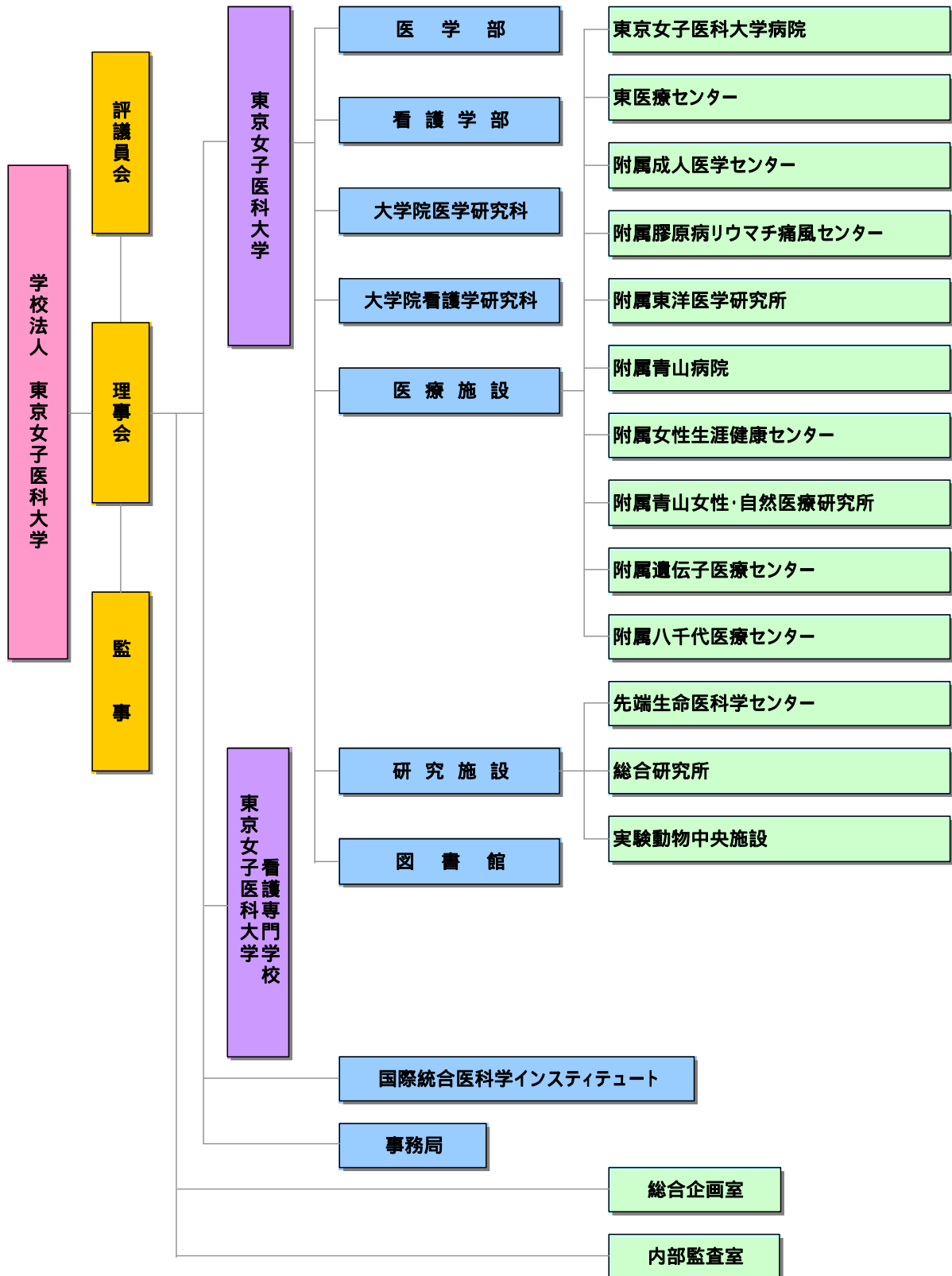
## (3) 沿革（簡略）

|    |           |                                     |
|----|-----------|-------------------------------------|
| 明治 | 33年（1900） | 東京女医学校創立                            |
|    | 41年（1908） | 附属病院開設                              |
|    | 45年（1912） | 財団法人東京女子医学専門学校設立<br>東京女子医学専門学校開設    |
| 昭和 | 5年（1930）  | 附属産婆看護婦養成所開設（昭和22年廃止）               |
|    | 9年（1934）  | 附属第二病院開設                            |
|    | 19年（1944） | 東京女子厚生専門学校（保健婦養成）開校（昭和26年閉校）        |
|    | 22年（1947） | 東京女子医科大学予科開設                        |
|    | 25年（1950） | 東京女子医科大学医学部開設                       |
|    | 26年（1951） | 学校法人東京女子医科大学認可<br>附属看護学院（乙種看護婦養成）開設 |
|    | 27年（1952） | 東京女子医科大学開設                          |
|    | 28年（1953） | 附属看護学院を准看護学院と改称（昭和48年廃止）            |
|    | 33年（1958） | 大学院医学研究科開設<br>総合研究所開設               |
|    | 40年（1965） | 附属高等看護学校開校                          |

- 44年(1969) 看護短期大学開校(平成13年閉校)  
医用技術研究施設開設  
(昭和51年医用工学研究施設に改称)
- 47年(1972) 附属第二高等看護学校開校  
(昭和52年附属第二看護専門学校に改称)
- 49年(1974) 実験動物中央施設設立
- 50年(1975) 看護短期大学専攻科(助産婦養成)開設  
附属成人医学センター開設
- 52年(1977) 附属高等看護学校を附属看護専門学校に改称(平成2年閉校)
- 57年(1982) 附属膠原病リウマチ痛風センター開設
- 平成 4年(1992) 附属東洋医学研究所開設  
附属青山病院開設
- 7年(1995) 附属第二看護専門学校を看護専門学校と改称  
附属第二病院田端駅前クリニック開設
- 9年(1997) 附属女性生涯健康センター開設
- 10年(1998) 看護学部開設
- 13年(2001) 医用工学研究施設を先端生命医科学研究所と改組
- 14年(2002) 大学院看護学研究科開設
- 15年(2003) 附属青山女性・自然医療研究所開設
- 16年(2004) 附属遺伝子医療センター開設
- 17年(2005) 附属第二病院を東医療センターと改称  
国際統合医科学研究所インスティテュート(IREIIMS)開設
- 18年(2006) 附属八千代医療センター開設
- 19年(2007) 東医療センター田端駅前クリニックを閉鎖し、  
東医療センター日暮里クリニックを開設  
附属東洋医学研究所を田端駅前クリニック跡地に移転、開設
- 20年(2008) 先端生命医科学センター開設



(4) 組織



## (5) 役員

## 1) 理事 (平成21年3月1日現在)

| 役職名   | 氏名    | 就任年月日      | 担当業務                           |
|-------|-------|------------|--------------------------------|
| 理事長   | 吉岡 博光 | 平成2年5月1日   | 代表理事                           |
| 学長理事  | 宮崎 俊一 | 平成19年11月1日 | 教育・研究担当、<br>国際統合医科学インスティテュート担当 |
| 常務理事  | 平岩 武久 | 平成18年9月1日  | 特任事項担当、事務局担当                   |
| 病院長理事 | 永井 厚志 | 平成18年5月26日 | 医療担当                           |
| 理事    | 吉岡 俊正 | 平成19年4月1日  | 教育・研究担当                        |
| 〃     | 竹宮 敏子 | 平成18年1月1日  | 総務担当                           |
| 〃     | 岩本 絹子 | 平成20年1月1日  | 総務担当                           |
| 〃     | 高野加寿恵 | 平成15年4月1日  | 医療担当                           |
| 〃     | 大澤真木子 | 平成16年4月1日  | 教育・研究、医療担当                     |
| 〃     | 岩本 安彦 | 平成17年4月1日  | 労務担当、<br>マスタープラン21プロジェクト担当     |
| 〃     | 亀岡 信悟 | 平成19年4月1日  | 医療担当                           |
| 〃     | 堀 貞夫  | 平成20年6月1日  | 医療担当                           |
| 〃     | 久米美代子 | 平成21年1月1日  | 教育・研究担当                        |

## 2) 監事

諏訪 美智子 (平成13年4月1日就任)

小暮 美津子 (平成13年6月1日就任)

幸田 正孝 (平成14年1月1日就任)

## 3) 評議員

| 選出区分  | 定員      | 現員 |
|-------|---------|----|
| 学長    | 1       | 1  |
| 病院長   | 1       | 1  |
| 至誠会   | 9~14    | 14 |
| 教職員   | 8~12    | 10 |
| 学識・功労 | 5~6     | 4  |
| 計     | (24~34) | 30 |

## (6) 施設等所在住所

## 大学本部

|  |                    |   |
|--|--------------------|---|
| { 大学院、医学部、看護学部(2~4学年)<br>図書館、本院、先端生命医科学センター、<br>総合研究所、実験動物中央施設、<br>国際統合医科学インテリテュート } | 〒162-8666          | 東京都新宿区河田町 8-1                             |
|  | 大東キャンパス{看護学部(1学年)} | 〒437-1434                                 |
| 東 医 療 セ ン タ ー  | 〒116-8567          | 東京都荒川区西尾久 2-1-10                          |
| 東医療センター日暮里クリニック  | 〒116-0013          | 東京都荒川区西日暮里 2-20-1<br>ステーションポートタワー4,5階     |
| 附 属 成 人 医 学 セ ン タ ー  | 〒150-0002          | 東京都渋谷区渋谷 2-15-1<br>渋谷クロスタワー20,21,22階      |
| 附属膠原病リウマチ痛風センター本部  | 〒162-0054          | 東京都新宿区河田町 10-22                           |
| 附属膠原病リウマチ痛風センター分室  | 〒163-0804          | 東京都新宿区西新宿 2-4-1<br>新宿 NS ビル 4 階           |
| 附 属 東 洋 医 学 研 究 所  | 〒114-0014          | 東京都北区田端 1-21-8<br>NSK ビル 3 階              |
| 附 属 青 山 病 院  | 〒107-0061          | 東京都港区北青山 2-7-3<br>プラセオ青山ビル 3,4,5 階、地下 1 階 |
| 附 属 女 性 生 涯 健 康 セ ン タ ー  | 〒162-0056          | 東京都新宿区若松町 9-9<br>パークホームズ新宿若松町 1 階         |
| 附属女性生涯健康センター第二クリニック  | 〒162-0056          | 東京都新宿区若松町 9-4<br>MH ビル地下 1 階              |
| 附属青山女性・自然医療研究所   | 〒107-0061          | 東京都港区北青山 2-7-3<br>プラセオ青山ビル 1 階            |
| 附 属 遺 伝 子 医 療 セ ン タ ー  | 〒162-0054          | 東京都新宿区河田町 10-22                           |
| 附 属 八 千 代 医 療 セ ン タ ー  | 〒276-0046          | 千葉県八千代市大和田新田 477-96                       |
| 看 護 専 門 学 校  | 〒116-0011          | 東京都荒川区西尾久 2-2-1                           |
| 白 河 セ ミ ナ ー ハ ウ ス  | 〒961-8061          | 福島県西白河郡西郷村<br>大字小田倉字番場坂 310-2             |
| 彌 生 記 念 館  | 〒156-0042          | 東京都世田谷区羽根木 1-19-5                         |

## 2 . 設置する学校・学部・学科等

### (1) 大学・大学院

|                  |                 |
|------------------|-----------------|
| 東京女子医科大学         | (学 長 宮 崎 俊 一)   |
| 医学部医学科           | (医学部長 大 澤 真木子)  |
| 看護学部看護学科         | (看護学部長 久 米 美代子) |
| 大学院医学研究科         | (研究科長 宮 崎 俊 一)  |
| 大学院看護学研究科        | (研究科長 宮 崎 俊 一)  |
| 図 書 館            | (館 長 小 林 槇 雄)   |
| 先端生命医科学研究所       | (所 長 岡 野 光 夫)   |
| 総合研究所            | (所 長 高 桑 雄 一)   |
| 実験動物中央施設         | (施 設 長 丸 義 朗)   |
| 国際統合医科学インスティテュート | (所 長 宮 崎 俊 一)   |

### (2) 専修学校

|                |                 |
|----------------|-----------------|
| 東京女子医科大学看護専門学校 | (学 校 長 中 川 隆 雄) |
|----------------|-----------------|

### 3. 学部・学科等入学定員、学生数の状況

#### (1) 入学定員、入学者数、収容定員、学生数 (平成20年5月1日現在 単位：人)

| 学校名                | 学部・研究科           | 学 科          | 入学定員 | 入学者数 | 収容定員  | 学生数   |
|--------------------|------------------|--------------|------|------|-------|-------|
| 東京女子医科大学           | 医 学 部            | 医学科          | 100  | 102  | 600   | 613   |
|                    | 看護学部             | 看護学科         | 85   | 90   | 360   | 362   |
|                    | 学部 計             |              | 185  | 192  | 960   | 975   |
| 東京女子医科大学<br>大学院    | 医学研究科<br>博士課程    | 形態学系専攻       | 5    | 3    | 20    | 5     |
|                    |                  | 機能学系専攻       | 4    | 1    | 16    | 3     |
|                    |                  | 社会医学系専攻      | 4    | 1    | 16    | 8     |
|                    |                  | 内科系専攻        | 8    | 3    | 32    | 39    |
|                    |                  | 外科系専攻        | 10   | 1    | 40    | 18    |
|                    |                  | 先端生命医科学系専攻   | 8    | 7    | 32    | 33    |
|                    |                  | 医学研究科小計      | 39   | 16   | 156   | 106   |
|                    | 看護学研究科<br>博士前期課程 | 看護学専攻        | 16   | 23   | 32    | 51    |
|                    | 看護学研究科<br>博士後期課程 | 看護学専攻        | 10   | 2    | 30    | 18    |
| 大学院 計              |                  | 65           | 41   | 218  | 175   |       |
| 東京女子医科大学<br>看護専門学校 |                  | 看護学科<br>3年課程 | 80   | 88   | 240   | 254   |
| 合 計                |                  |              | 330  | 321  | 1,418 | 1,404 |

収容定員に3・4年次の編入生(20名)を含む。

#### (2) 学生数の推移 (単位：人)

| 学校名            | 学部・研究科・学科    | 平成18年 | 平成19年 | 平成20年 |
|----------------|--------------|-------|-------|-------|
| 東京女子医科大学       | 医学部          | 608   | 609   | 613   |
|                | 看護学部         | 353   | 358   | 362   |
|                | 計            | 961   | 967   | 975   |
| 東京女子医科大学大学院    | 医学研究科        | 115   | 116   | 106   |
|                | 看護学研究科博士前期課程 | 37    | 47    | 51    |
|                | 看護学研究科博士後期課程 | 20    | 16    | 18    |
|                | 計            | 172   | 179   | 175   |
| 東京女子医科大学看護専門学校 | 看護専門学校       | 275   | 261   | 254   |
| 総 計            |              | 1,408 | 1,407 | 1,404 |

## (3) 入学試験、国家試験、卒業進路

## 1) 医学部

## 入試状況

| 年 度      | 一 般        |            |            |       |    |     | 推 薦        |            |            |
|----------|------------|------------|------------|-------|----|-----|------------|------------|------------|
|          | 志願者<br>(人) | 入学者<br>(人) | 倍 率<br>(倍) | 入学者内訳 |    |     | 志願者<br>(人) | 入学者<br>(人) | 倍 率<br>(倍) |
|          |            |            |            | 現役    | 一浪 | その他 |            |            |            |
| 平成 19 年度 | 1,266      | 73         | 17.34      | 21    | 32 | 20  | 98         | 29         | 3.38       |
| 平成 20 年度 | 1,227      | 75         | 16.36      | 25    | 31 | 19  | 56         | 27         | 2.07       |
| 平成 21 年度 | 1,308      | 80         | 16.35      | 30    | 38 | 12  | 80         | 30         | 2.66       |

倍率 = 志願者 ÷ 入学者

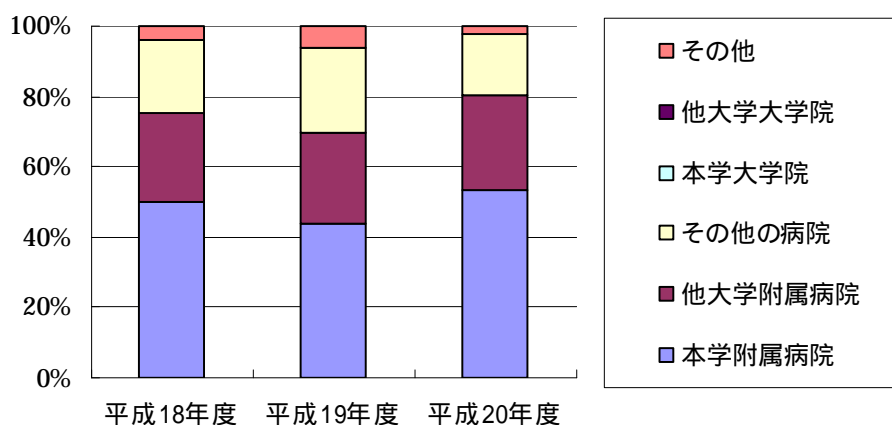
## 医師国家試験合格率

| 年 (回)             | 新卒者のみ | 既卒者込  | 全国平均  |
|-------------------|-------|-------|-------|
| 平成 19 年 (第 101 回) | 91.1% | 84.5% | 87.9% |
| 平成 20 年 (第 102 回) | 93.8% | 87.6% | 90.6% |
| 平成 21 年 (第 103 回) | 97.9% | 90.7% | 91.0% |

## 卒業生の進路

| 年 度      | 卒業生<br>人 数<br>(人) | 卒業研修先  |       |            | 大学院  |      | その他  |
|----------|-------------------|--------|-------|------------|------|------|------|
|          |                   | 大学附属病院 |       | その他<br>の病院 | 本 学  | 他大学  |      |
|          |                   | 本 学    | 他大学   |            |      |      |      |
| 平成 18 年度 | 101               | 50.0%  | 25.0% | 20.8%      | 0.0% | 0.0% | 4.0% |
| 平成 19 年度 | 96                | 43.7%  | 26.0% | 24.0%      | 0.0% | 0.0% | 6.3% |
| 平成 20 年度 | 96                | 53.1%  | 27.1% | 17.7%      | 0.0% | 0.0% | 2.1% |

## 医学部卒業生の進路状況



## 2) 看護学部

## 入試状況（一般・推薦）

| 年 度      | 一 般        |            |            |       |     |     | 推 薦        |            |            |
|----------|------------|------------|------------|-------|-----|-----|------------|------------|------------|
|          | 志願者<br>(人) | 入学者<br>(人) | 倍 率<br>(倍) | 入学者内訳 |     |     | 志願者<br>(人) | 入学者<br>(人) | 倍 率<br>(倍) |
|          |            |            |            | 現役    | 一 浪 | その他 |            |            |            |
| 平成 19 年度 | 333        | 60         | 5.55       | 47    | 11  | 2   | 31         | 28         | 1.11       |
| 平成 20 年度 | 281        | 57         | 4.93       | 49    | 7   | 1   | 33         | 33         | 1.00       |
| 平成 21 年度 | 309        | 53         | 5.83       | 43    | 6   | 4   | 43         | 37         | 1.16       |

倍率 = 志願者 ÷ 入学者

## 入試状況（編入学）

| 年 度      | 志願者<br>(人) | 入学者<br>(人) | 倍 率<br>(倍) | 入学者内訳 |     |     | 最終学歴 |      |
|----------|------------|------------|------------|-------|-----|-----|------|------|
|          |            |            |            | 現 役   | 浪 人 | 社会人 | 短期大学 | 専門学校 |
| 平成 19 年度 | 42         | 10         | 4.20       | 7     | 0   | 3   | 3    | 7    |
| 平成 20 年度 | 20         | 4          | 5.00       | 0     | 0   | 4   | 1    | 3    |
| 平成 21 年度 | 12         | 4          | 3          | 1     | 0   | 3   | 1    | 3    |

倍率 = 志願者 ÷ 入学者

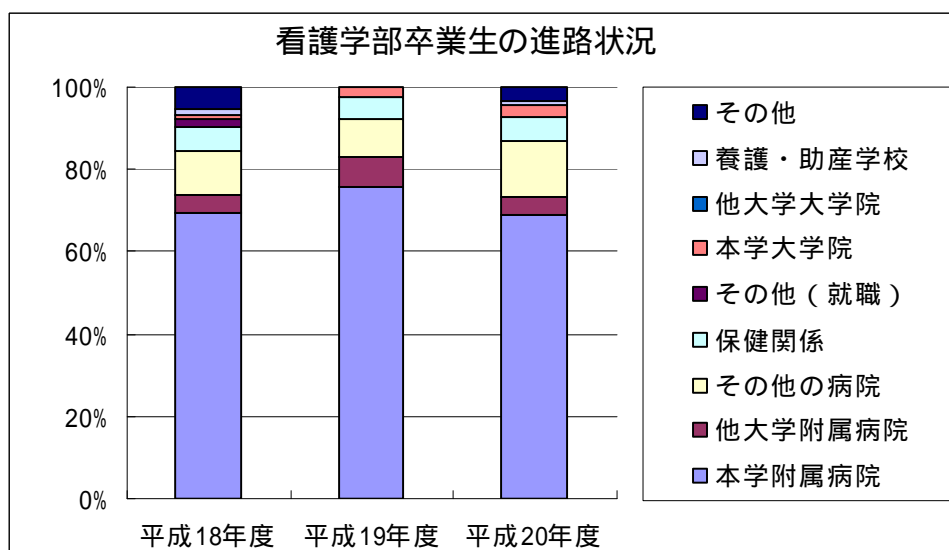
## 国家試験合格率

| 年       | 看護師       |          |            | 保健師       |          |            | 助産師       |          |            |
|---------|-----------|----------|------------|-----------|----------|------------|-----------|----------|------------|
|         | 新卒者<br>のみ | 既卒者<br>込 | 全 国<br>平 均 | 新卒者<br>のみ | 既卒者<br>込 | 全 国<br>平 均 | 新卒者<br>のみ | 既卒者<br>込 | 全 国<br>平 均 |
| 平成 19 年 | 97.3%     | -        | 90.6%      | 97.8%     | -        | 99.0%      | 100.0%    | -        | 94.3%      |
| 平成 20 年 | 96.1%     | -        | 90.3%      | 89.5%     | -        | 91.1%      | 100.0%    | -        | 98.1%      |
| 平成 21 年 | 93.9%     | -        | 89.9%      | 96.7%     | -        | 97.7%      | 100.0%    | -        | 99.9%      |

卒業生の進路状況

| 年 度    | 卒業生<br>の人数<br>(人) | 就 職    |      |            |          |      | 進 学  |      |             | その他  |
|--------|-------------------|--------|------|------------|----------|------|------|------|-------------|------|
|        |                   | 大学附属病院 |      | その他<br>の病院 | 保健<br>関係 | その他  | 大学院  |      | 養護・<br>助産学校 |      |
|        |                   | 本学     | 他大学  |            |          |      | 本学   | 他大学  |             |      |
| 平成18年度 | 101               | 69.2%  | 4.4% | 11.0%      | 5.5%     | 2.2% | 1.1% | 0.0% | 1.1%        | 5.5% |
| 平成19年度 | 87                | 75.9%  | 6.9% | 9.2%       | 5.7%     | 0.0% | 2.3% | 0.0% | 0.0%        | 0.0% |
| 平成20年度 | 93                | 68.8%  | 4.3% | 14.0%      | 5.4%     | 0.0% | 3.2% | 0.0% | 1.1%        | 3.2% |

看護学部卒業生の進路状況





## 3) 看護専門学校

## 入試状況（一般・推薦）

| 年 度    | 一 般        |            |            |       |    |    |     | 推 薦        |            |            |
|--------|------------|------------|------------|-------|----|----|-----|------------|------------|------------|
|        | 志願者<br>(人) | 入学者<br>(人) | 倍 率<br>(倍) | 入学者内訳 |    |    |     | 志願者<br>(人) | 入学者<br>(人) | 倍 率<br>(倍) |
|        |            |            |            | 現役    | 大学 | 短大 | その他 |            |            |            |
| 平成19年度 | 222        | 24         | 9.25       | 16    | 3  | 0  | 5   | 47         | 37         | 1.27       |
| 平成20年度 | 204        | 37         | 5.51       | 20    | 3  | 3  | 11  | 31         | 26         | 1.19       |
| 平成21年度 | 95         | 30         | 3.17       | 16    | 4  | 1  | 9   | 36         | 32         | 1.13       |

倍率 = 志願者 ÷ 入学者

## 入試状況（社会人）

| 年 度    | 社会人        |            |            |       |    |    |     |
|--------|------------|------------|------------|-------|----|----|-----|
|        | 志願者<br>(人) | 入学者<br>(人) | 倍 率<br>(倍) | 入学者内訳 |    |    |     |
|        |            |            |            | 高校卒   | 大学 | 短大 | その他 |
| 平成19年度 | 173        | 20         | 8.65       | 0     | 10 | 5  | 5   |
| 平成20年度 | 118        | 25         | 4.72       | 0     | 10 | 3  | 12  |
| 平成21年度 | 108        | 26         | 4.15       | 3     | 15 | 6  | 2   |

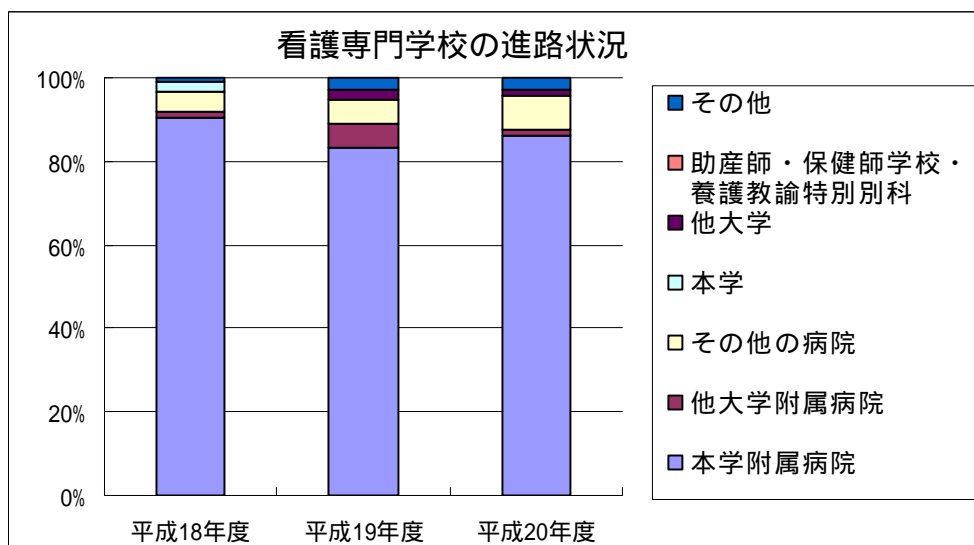
倍率 = 志願者 ÷ 入学者

## 看護師国家試験合格率

| 年（回）        | 新卒者のみ | 既卒者込  | 全国平均  |
|-------------|-------|-------|-------|
| 平成19年（第96回） | 96.5% | 91.1% | 90.6% |
| 平成20年（第97回） | 95.8% | 90.1% | 90.3% |
| 平成21年（第98回） | 97.2% | 94.8% | 89.9% |

## 卒業生の進路

| 年 度    | 卒業生<br>の人数<br>(人) | 就 職    |      |            | 進 学  |      |                            | その他  |
|--------|-------------------|--------|------|------------|------|------|----------------------------|------|
|        |                   | 大学附属病院 |      | その他<br>の病院 | 大 学  |      | 助産師・保健<br>師学校・養護<br>教諭特別別科 |      |
|        |                   | 本 学    | 他大学  |            | 本 学  | 他大学  |                            |      |
| 平成18年度 | 85                | 90.6%  | 1.2% | 4.7%       | 2.4% | 0.0% | 0.0%                       | 1.1% |
| 平成19年度 | 72                | 83.3%  | 5.6% | 5.6%       | 0.0% | 2.8% | 0.0%                       | 2.7% |
| 平成20年度 | 72                | 86.1%  | 1.4% | 8.3%       | 0.0% | 1.4% | 0.0%                       | 2.8% |



## 4 . 大学院

## (1) 学位授与状況

(単位：人)

| 研究科・専攻        |                | 学 位    | 平成18年度 | 平成19年度 | 平成20年度 |
|---------------|----------------|--------|--------|--------|--------|
| 医学研究科         | 形態学系専攻         | 博士（課程） |        | 1      | 1      |
|               |                | 博士（論文） | 5      | 1      | 4      |
|               | 機能学系専攻         | 博士（課程） |        | 1      | 1      |
|               |                | 博士（論文） | 1      | 1      | 1      |
|               | 社会医学系専攻        | 博士（課程） | 2      | 3      | 0      |
|               |                | 博士（論文） | 2      | 3      | 2      |
|               | 内科系専攻          | 博士（課程） | 8      | 6      | 11     |
|               |                | 博士（論文） | 26     | 63     | 21     |
|               | 外科系専攻          | 博士（課程） | 3      | 5      | 1      |
|               |                | 博士（論文） | 19     | 16     | 34     |
|               | 先端生命医科学系<br>専攻 | 博士（課程） | 2      | 8      | 10     |
|               |                | 博士（論文） |        | 0      | 0      |
| 小 計           | 博士（課程）         | 15     | 24     | 24     |        |
|               | 博士（論文）         | 53     | 84     | 62     |        |
| 医 学 研 究 科 合 計 |                |        | 68     | 108    | 86     |
| 看護学研究科        | 看護学専攻          | 修士（課程） | 21     | 15     | 27     |
|               |                | 博士（課程） | 2      | 3      | 0      |
|               | 看護学研究科合計       |        |        | 23     | 18     |
| 総 合 計         |                |        | 91     | 126    | 113    |

## 5 . 社会人教育

### (1) バイオメディカルカリキュラム（先端生命医科学研究所）

|        | 期 間                        | 修了生（人） |
|--------|----------------------------|--------|
| 第 38 期 | 平成 18 年 10 月～平成 19 年 9 月   | 41     |
| 第 39 期 | 平成 19 年 10 月～平成 20 年 9 月   | 44     |
| 第 40 期 | 平成 20 年 10 月～平成 21 年 9 月予定 | 37     |

### (2) 認定看護師教育センター（看護学部）

| 年 度      | 分 野    | 志願者<br>（人） | 入学者<br>（人） |
|----------|--------|------------|------------|
| 平成 18 年度 | 手術看護分野 | 96         | 30         |
|          | 透析看護分野 | 30         | 20         |
| 平成 19 年度 | 手術看護分野 | 114        | 30         |
|          | 透析看護分野 | 38         | 20         |
| 平成 20 年度 | 手術看護分野 | 109        | 30         |
|          | 透析看護分野 | 35         | 20         |

## 6. 研究費内訳

### (1) 外部資金の獲得状況

平成 20 年度

(円)

|                          | 医学部                  | 看護学部              | 研究所                  | 合計                   |
|--------------------------|----------------------|-------------------|----------------------|----------------------|
| 科学研究費補助金                 | 506,600,850          | 9,715,000         | 149,547,000          | 665,862,850          |
| 政府もしくは政府関連<br>法人からの研究助成金 | 1,226,825,024        | 2,456,407         | 928,105,256          | 2,157,386,687        |
| 民間の研究助成財団<br>等からの研究助成金   | 106,240,000          |                   | 12,212,000           | 118,452,000          |
| 奨学寄付金                    | 727,727,161          |                   | 6,400,000            | 734,127,161          |
| 受託研究費                    | 173,919,965          |                   | 94,950,000           | 268,869,965          |
| <b>研究費総額</b>             | <b>2,741,313,000</b> | <b>12,171,407</b> | <b>1,191,214,256</b> | <b>3,944,698,663</b> |

### (2) 主たる公的研究事業

平成 20 年度採択分 (継続含む)

は平成 20 年度新規採択分

| 採 択 項 目  | 部署名                  | 平成20年度<br>採択金額(円) |
|--|----------------------|-------------------|
| 質の高い大学教育推進プログラム(教育GP)<br>「女性医療リーダー育成をめざす全学横断教育」  | 医学部・看護学部             | 20,000,000        |
| 現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)<br>「アイ・アム・ユア・ドクター・プロジェクト」  | 医学教育学                | 16,000,000        |
| 特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)<br>「医のこころを実践する力を育むカリキュラム」  | 医学教育学                | 15,000,000        |
| 戦略的創造研究推進事業<br>「生体膜リン脂質多様性の構築機構の解明と高度不飽<br>和脂肪酸要求性蛋白質の同定」                                | 生理学(第二)              | 9,100,000         |
| 戦略的創造研究推進事業<br>「乳児における発達脳科学研究」「未熟児・新生児・<br>乳児における行動解析と脳機能イメージング」                         | 乳児行動<br>発達学講座        | 1,300,000         |
| 戦略的創造研究推進事業<br>「遺伝子破壊による糖鎖機能の戦略的解明」「線虫糖<br>鎖遺伝子機能の欠失突然変異体の取得と解析」                         | 生理学(第二)              | 936,000           |
| 戦略的創造研究推進事業<br>「模倣・コミュニケーション基盤機構の解明」   | 神経内科学                | 0                 |
| 科学技術試験研究委託事業<br>「ips細胞を用いた自家角膜再生治療法の開発(ips細胞<br>から分化誘導した角膜上皮細胞および角膜内皮細胞<br>の鈍化と細胞シート構築)」 | 先端生命<br>医科学研究所       | 3,120,000         |
| 科学技術振興調整費「戦略的研究拠点育成 国際統合<br>医療研究・人材育成拠点の創成」  | 国際統合医科学<br>インスティテュート | 839,754,087       |

(次頁へ続く)

| 採 択 項 目  | 部署名             | 平成20年度<br>採択金額(円) |
|--|-----------------|-------------------|
| 科学技術振興調整費<br>「先端融合領域イノベーション創出拠点の形成 再生医療本格化のための最先端技術融合拠点」                           | 先端生命<br>医科学研究所  | 449,912,356       |
| 科学技術振興委託費<br>「線虫欠失変異体の収集・保存・提供」  | 生理学(第二)         | 89,963,885        |
| 科学技術振興調整費<br>「女性研究者支援モデル育成 保育とワークシェアによる女性医学研究者支援」                                  | 女性医学研究者<br>支援室  | 49,999,860        |
| 科学技術振興委託費<br>「結核菌抗原類縁体を利用した癌標的免疫療法の確立<br>ガンマデルタ型T細胞の示す抗腫瘍作用の臨床応用 - 」               | 泌尿器科学           | 23,554,604        |
| 大学病院連携型高度医療人養成推進事業   | 病院各部署           | 18,500,000        |
| 社会人の学び直しニーズ対応教育推進事業委託<br>「臨床復帰へまず第一歩」をささえる女性医師への実践的再教育                             | 女性医師<br>再教育センター | 10,976,338        |
| 大学教育の国際化加速プログラム<br>(海外先進教育研究実践支援)(研究実践型)   | 解剖学             | 3,000,000         |
| 最先端学術情報基盤構築事業<br>「学術機関リポジトリの構築とコンテンツの拡充」   | 図書館             | 2,900,000         |
| 免許状更新講習プログラム開発委託事業   | 看護学部            | 1,757,407         |
| NEDO<br>「基礎研究から臨床研究への橋渡し促進技術開発/橋渡し促進技術開発/疾患動物を用いた新規治療機器の安全性・有効性評価手法の開発」            | 先端生命<br>医科学研究所  | 82,028,100        |
| NEDO<br>「再生医療評価研究開発事業 心筋再生治療研究開発」  | 先端生命<br>医科学研究所  | 60,307,800        |
| NEDO<br>「NEDOプロジェクトを核とした人材育成、産学連携等の総合的展開/次世代DDS型治療システムNEDO特別講座/刺激応答性システム設計講座」      | 先端生命<br>医科学研究所  | 19,947,900        |
| NEDO<br>「インテリジェント手術機器研究開発<主要部位対象機器研究開発>」   | 先端生命<br>医科学研究所  | 15,319,500        |
| NEDO<br>「再生医療の早期実用化を目指した再生評価技術開発」  | 先端生命<br>医科学研究所  | 10,491,600        |
| NEDO<br>「Oncoantigen を標的とした新規癌ペプチドワクチンの製品化を短期間に実現化する臨床研究技術の開発」「大腸癌ペプチドワクチン臨床研究の実施」 | 消化器外科学          | 2,000,250         |
| 独立行政法人物質・材料研究機構<br>「細胞・動物実験による材料評価とナノバイオ医学応用に向けた基盤研究」                              | 先端生命<br>医科学研究所  | 20,000,000        |
| 国立環境研究所<br>「平成20年度環境負荷を低減する水系クロマトグラフィシステムの開発委託業務」                                  | 先端生命<br>医科学研究所  | 9,000,000         |
| 財団法人テレコム先端技術研究支援センター<br>「小児・若年期における携帯電話端末使用と健康に関する疫学調査」                            | 衛生学<br>公衆衛生学(二) | 54,000,000        |

## 7. 教職員

## (1) 教員数

&lt; 医学部 &gt; (平成20年5月1日現在 単位:人)

| 年 度    | 教 授 |    | 准教授 |    | 講 師 |    | 非常勤講師 |     | 助 教   |     | 助教のうち<br>准講師(再掲) |      | 計     |     |
|--------|-----|----|-----|----|-----|----|-------|-----|-------|-----|------------------|------|-------|-----|
|        | 男   | 女  | 男   | 女  | 男   | 女  | 男     | 女   | 男     | 女   | 男                | 女    | 男     | 女   |
| 平成18年度 | 84  | 16 | 78  | 16 | 97  | 54 | 130   | 129 | 649   | 401 | (28)             | (33) | 1,038 | 616 |
| (計)    | 100 |    | 94  |    | 151 |    | 259   |     | 1,050 |     | (61)             |      | 1,654 |     |
| 平成19年度 | 85  | 17 | 89  | 15 | 135 | 55 | 125   | 134 | 644   | 385 | (33)             | (35) | 1,078 | 606 |
| (計)    | 102 |    | 104 |    | 190 |    | 259   |     | 1,029 |     | (68)             |      | 1,684 |     |
| 平成20年度 | 94  | 18 | 97  | 18 | 89  | 58 | 133   | 128 | 628   | 427 | (37)             | (28) | 1,041 | 649 |
| (計)    | 112 |    | 115 |    | 147 |    | 261   |     | 1,055 |     | (65)             |      | 1,690 |     |

&lt; 看護学部 &gt; (平成20年5月1日現在 単位:人)

| 年 度    | 教 授 |    | 准教授 |    | 講 師 |    | 非常勤講師 |    | 助 教 |    | 計  |    |
|--------|-----|----|-----|----|-----|----|-------|----|-----|----|----|----|
|        | 男   | 女  | 男   | 女  | 男   | 女  | 男     | 女  | 男   | 女  | 男  | 女  |
| 平成18年度 | 1   | 11 | 4   | 10 | 0   | 13 | 10    | 24 | 1   | 15 | 16 | 73 |
| (計)    | 12  |    | 14  |    | 13  |    | 34    |    | 16  |    | 89 |    |
| 平成19年度 | 2   | 10 | 4   | 12 | 0   | 9  | 10    | 13 | 1   | 15 | 17 | 59 |
| (計)    | 12  |    | 16  |    | 9   |    | 23    |    | 16  |    | 76 |    |
| 平成20年度 | 1   | 9  | 3   | 11 | 0   | 10 | 10    | 21 | 1   | 19 | 15 | 70 |
| (計)    | 10  |    | 14  |    | 10  |    | 31    |    | 20  |    | 85 |    |

&lt; 看護専門学校 &gt; (平成20年5月1日現在 単位:人)

| 年 度    | 専任教員 |    | 非常勤講師<br>(学外) |    | 計  |    |
|--------|------|----|---------------|----|----|----|
|        | 男    | 女  | 男             | 女  | 男  | 女  |
| 平成18年度 | 0    | 17 | 4             | 20 | 4  | 37 |
| (計)    | 17   |    | 24            |    | 41 |    |
| 平成19年度 | 0    | 17 | 7             | 22 | 7  | 39 |
| (計)    | 17   |    | 29            |    | 46 |    |
| 平成20年度 | 0    | 17 | 2             | 13 | 2  | 30 |
| (計)    | 17   |    | 15            |    | 32 |    |

## (2) 職員数 (平成20年5月1日現在 単位:人)

| 年 度    | 事務系 |     | 技術技能系 |    | 医療系   |       | 教務系 |    | その他 |    | 計     |       |
|--------|-----|-----|-------|----|-------|-------|-----|----|-----|----|-------|-------|
|        | 男   | 女   | 男     | 女  | 男     | 女     | 男   | 女  | 男   | 女  | 男     | 女     |
| 平成18年度 | 184 | 428 | 75    | 44 | 359   | 2,219 | 14  | 40 | 45  | 87 | 677   | 2,818 |
| (計)    | 612 |     | 119   |    | 2,578 |       | 54  |    | 132 |    | 3,495 |       |
| 平成19年度 | 198 | 484 | 72    | 48 | 376   | 2,345 | 13  | 40 | 45  | 83 | 704   | 3,000 |
| (計)    | 682 |     | 120   |    | 2,721 |       | 53  |    | 128 |    | 3,704 |       |
| 平成20年度 | 194 | 499 | 77    | 47 | 393   | 2,337 | 15  | 40 | 43  | 79 | 722   | 3,002 |
| (計)    | 693 |     | 124   |    | 2,730 |       | 55  |    | 122 |    | 3,724 |       |

\*事務系...本部・学務部・病院事務部・各医療施設等の事務職員

\*技術技能系...技術職・技能職(工務技士・電話交換手等)

\*医療系...看護系職員および医療技術系職員(放射線技師・検査技師・薬剤師・栄養士等)

\*教務系...教務補助等

\*その他...一般職(労務補助)

## (3) 研修生 (平成20年5月1日現在 単位:人)

| 年 度    | 臨床研修医 |     | 医療練士 |     | 計   |     |
|--------|-------|-----|------|-----|-----|-----|
|        | 男     | 女   | 男    | 女   | 男   | 女   |
| 平成18年度 | 85    | 122 | 74   | 133 | 159 | 255 |
| (計)    | 207   |     | 207  |     | 414 |     |
| 平成19年度 | 78    | 120 | 104  | 164 | 182 | 284 |
| (計)    | 198   |     | 268  |     | 466 |     |
| 平成20年度 | 77    | 111 | 141  | 192 | 218 | 303 |
| (計)    | 188   |     | 333  |     | 521 |     |

医療練士...本学独自の卒後臨床研修制度

## (1)から(3)の合計 (平成20年5月1日現在 単位:人)

| 年 度    | 教員数   |     | 職員数   |       | 研修生 |     | 総合計   |       |
|--------|-------|-----|-------|-------|-----|-----|-------|-------|
|        | 男     | 女   | 男     | 女     | 男   | 女   | 男     | 女     |
| 平成18年度 | 1,058 | 726 | 677   | 2,818 | 159 | 255 | 1,894 | 3,799 |
| (計)    | 1,784 |     | 3,495 |       | 414 |     | 5,693 |       |
| 平成19年度 | 1,102 | 704 | 704   | 3,000 | 182 | 284 | 1,988 | 3,988 |
| (計)    | 1,806 |     | 3,704 |       | 466 |     | 5,976 |       |
| 平成20年度 | 1,058 | 749 | 722   | 3,002 | 218 | 303 | 1,998 | 4,054 |
| (計)    | 1,807 |     | 3,724 |       | 521 |     | 6,052 |       |



## 8. 医療施設の概要

### (1) 施設名

(平成21年3月31日現在)

|                 |              |
|-----------------|--------------|
| 東京女子医科大学病院(本院)  | (病院長 永井厚志)   |
| 東医療センター         | (病院長 大塚邦明)   |
| 附属成人医学センター      | (所長 前田 淳)    |
| 附属膠原病リウマチ痛風センター | (所長 山中 寿)    |
| 附属東洋医学研究所       | (所長 佐藤 弘)    |
| 附属青山病院          | (病院長 川名正敏)   |
| 附属女性生涯健康センター    | (所長 加茂登志子)   |
| 附属青山女性・自然医療研究所  | (所長代行 加茂登志子) |
| 附属遺伝子医療センター     | (所長 齋藤加代子)   |
| 附属八千代医療センター     | (病院長 伊藤達雄)   |

### (2) 外来・入院患者数

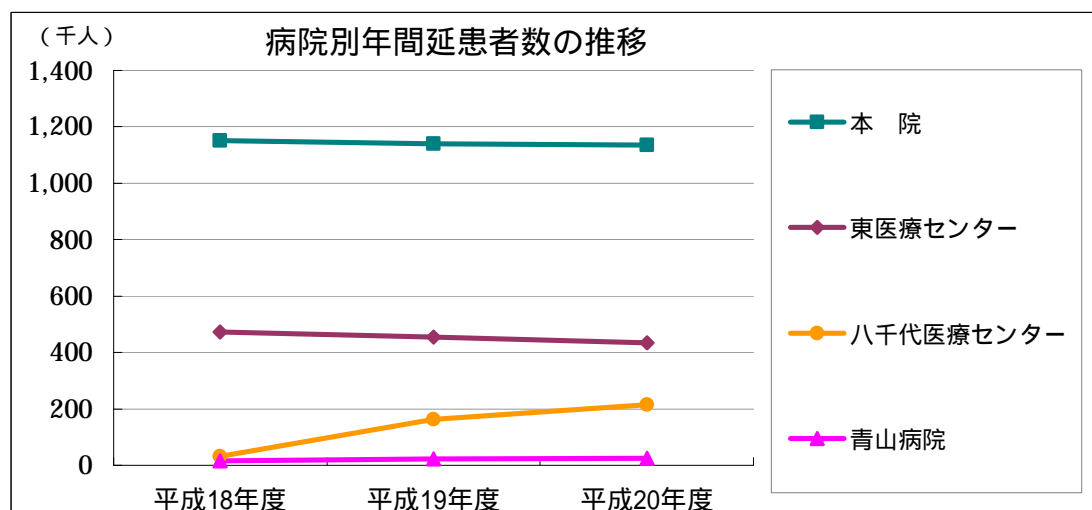
#### 1) 外来患者数の推移

年間延患者数の推移

<病 院>

(単位：人)

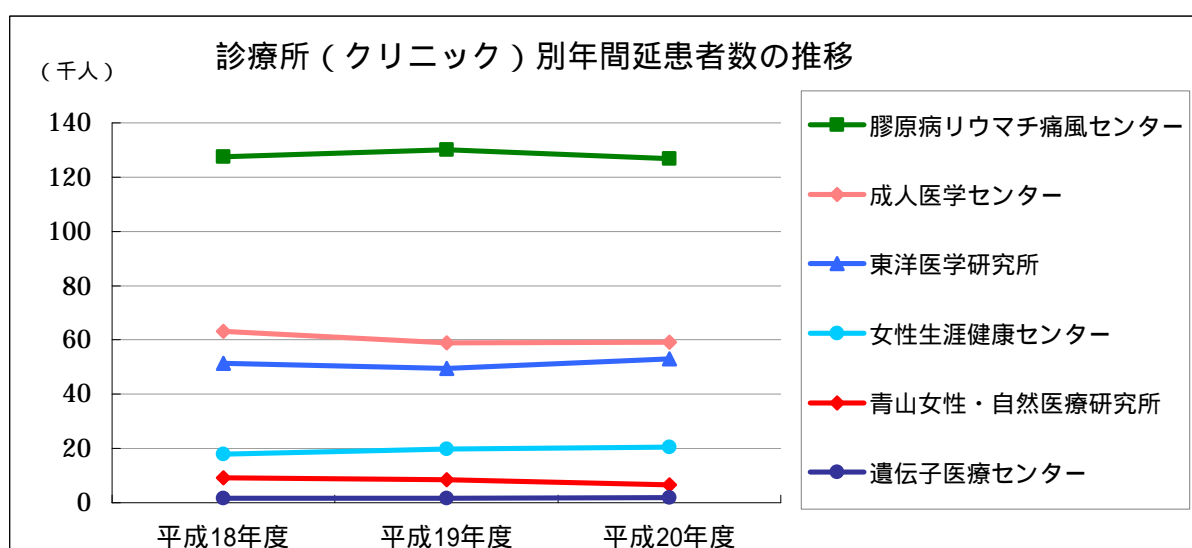
|           | 平成18年度    | 平成19年度    | 平成20年度    |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 本 院       | 1,151,528 | 1,140,005 | 1,135,277 |
| 東医療センター   | 473,522   | 453,729   | 433,360   |
| 青山病院      | 16,885    | 21,968    | 24,161    |
| 八千代医療センター | 31,174    | 163,156   | 214,638   |
| 合 計       | 1,673,109 | 1,778,858 | 1,807,436 |



## &lt; 診療所（クリニック） &gt;

（単位：人）

|               | 平成18年度  | 平成19年度  | 平成20年度  |
|---------------|---------|---------|---------|
| 成人医学センター      | 63,154  | 58,935  | 59,119  |
| 膠原病リウマチ痛風センター | 127,612 | 130,148 | 126,780 |
| 東洋医学研究所       | 51,353  | 49,415  | 53,134  |
| 女性生涯健康センター    | 17,979  | 19,883  | 20,441  |
| 青山女性・自然医療研究所  | 9,228   | 8,495   | 6,660   |
| 遺伝子医療センター     | 1,607   | 1,669   | 1,818   |
| 合 計           | 270,933 | 268,545 | 267,952 |



## 一日平均患者数の推移

（単位：人）

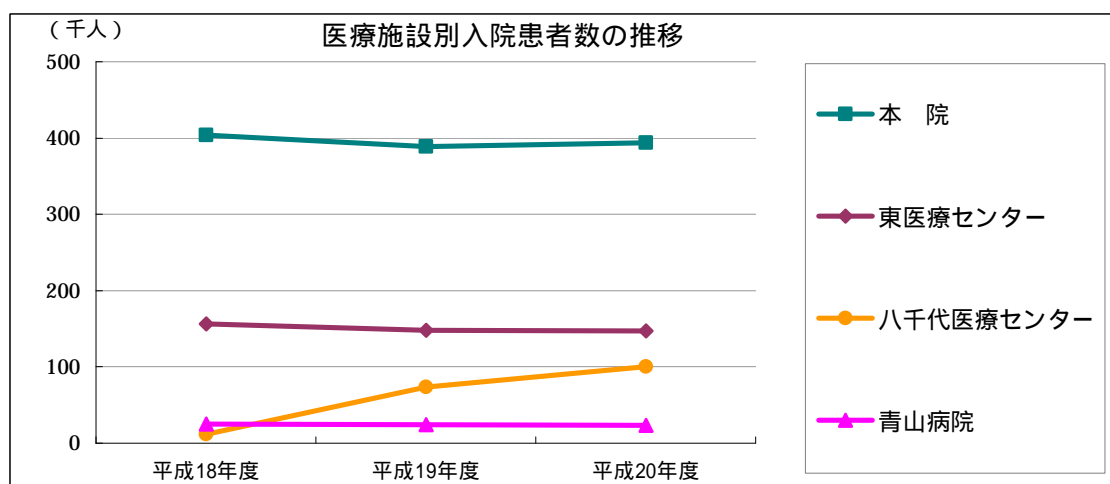
|               | 平成18年度 | 平成19年度 | 平成20年度 |
|---------------|--------|--------|--------|
| 本 院           | 4,098  | 4,057  | 4,040  |
| 東医療センター       | 1,685  | 1,615  | 1,542  |
| 成人医学センター      | 225    | 210    | 210    |
| 膠原病リウマチ痛風センター | 454    | 463    | 451    |
| 東洋医学研究所       | 183    | 179    | 189    |
| 青山病院          | 60     | 78     | 86     |
| 女性生涯健康センター    | 64     | 71     | 73     |
| 青山女性・自然医療研究所  | 33     | 30     | 24     |
| 遺伝子医療センター     | 6      | 6      | 6      |
| 八千代医療センター     | 362    | 581    | 764    |
| 合 計           | 7,170  | 7,290  | 7,385  |

## 2) 入院患者数の推移

## 年間延患者数の推移

(単位：人)

|           | 平成18年度  | 平成19年度  | 平成20年度  |
|-----------|---------|---------|---------|
| 本院        | 404,058 | 389,045 | 393,623 |
| 東医療センター   | 156,322 | 147,713 | 147,014 |
| 青山病院      | 25,491  | 24,600  | 23,517  |
| 八千代医療センター | 11,497  | 73,973  | 100,317 |
| 合計        | 597,368 | 635,331 | 664,471 |



## 病床利用率の推移

|           | 平成18年度         | 平成19年度         | 平成20年度         |
|-----------|----------------|----------------|----------------|
| 本院        | 88.9% (1,243床) | 84.6% (1,260床) | 85.7% (1,259床) |
| 東医療センター   | 88.2% (486床)   | 83.0% (486床)   | 82.9% (486床)   |
| 青山病院      | 83.1% (84床)    | 80.0% (84床)    | 76.7% (84床)    |
| 八千代医療センター | 66.3% (150床)   | 78.8% (264床)   | 87.7% (313床)   |

( )内の数字は、稼働病床数

## 一日平均入院患者数の推移

(単位：人)

|           | 平成18年度 | 平成19年度 | 平成20年度 |
|-----------|--------|--------|--------|
| 本院        | 1,107  | 1,063  | 1,078  |
| 東医療センター   | 428    | 404    | 403    |
| 青山病院      | 70     | 67     | 64     |
| 八千代医療センター | 101    | 202    | 275    |
| 合計        | 1,706  | 1,736  | 1,820  |

## 事業の概要

### 1. 主要な事業計画に対する進捗状況

#### (1) 第1病棟建築工事

- ・本院（河田町キャンパス）の病棟施設の更新、医療施設の効率的な再配置を図るため、総合外来センター東側に建築中の免震構造の新病棟（地上9階・地下3階、延床面積約2万㎡、病床数234床）は平成21年12月の竣工、平成22年3月の運用開始に向け、建築が進んでいる。
- ・この施設は、河田町キャンパス病棟群再開発計画の第一段階に位置づけられており、今後は後述の「マスタープラン21プロジェクト」の各分科会と協働しつつ、この第1病棟を拠点として、更なる医療の質と安全性の向上、患者さんのアメニティ改善、学生や職員の教育の質向上とともに、経営効率を上げることを目的として、老朽化・分散化した既存病棟群の建て替え計画を立案して行く。

#### (2) 東京女子医科大学がんセンター

- ・前年度の「東京女子医科大学がんセンター規程」の制定に続き、「がん患者相談室内規」、「がん登録室内規」、「外来化学療法室内規」、「がん緩和ケア室内規」、「レジメン審査室内規」が制定され、がんセンターとしての組織を確立し、各室それぞれの内規に基づいて、活発に業務を遂行している。広報活動の一環として、がんセンターのホームページを公開した。また年度末には日本緩和医療学会から日本緩和医療学会認定研修施設として認定され、地域がん診療連携拠点病院としての基盤を急速に拡充しつつある。

##### 【がん患者相談室】

地域がん診療連携拠点病院には、がんに関する様々な相談に対応する「相談支援センター」の設置が義務づけられており、がん患者相談室では、相談シートの作成など運用の確立、地域がん診療連携拠点病院に関する研修会の参加報告、相談件数の集計報告などを行った。がん患者相談室での相談件数は、電話相談658件、面談968件であり、セカンドオピニオン医師の紹介件数は、受入232件、紹介60件であった。

##### 【がん登録室】

がん登録室では個人情報の保護に万全を期しつつ、各診療科のがん登録医、医療記録管理室の協力を得て、本院でがんの診断・治療が行われた全ての患者さんの登録を行っている。今年度の登録件数は、841件であった。

##### 【外来化学療法室】

5月に総合外来センター2階に外来化学療法室をオープンし、外来化学療法部長および各診療科からの当番制による派遣医師1名、専任看護師6名で運営されており、専任薬剤師が調剤や薬剤指導を行っている。毎月約750名の患者さんが化学療法を受けている。外

来化学療法室の運用、点滴注射件数の報告、アナフィラキシー反応出現報告などを行った。

#### 【がん緩和ケア室】

がん緩和ケア室では、在宅医療部や病診連携のネットワークを有効に利用しながら、患者さんご家族にとって最良の結果が得られるようにコーディネートあるいはマネジメントを行っている。また、地域がん診療連携拠点病院として院内外の医師対象の緩和ケア研修会を開催したほか、院内医療者向けに緩和ケア研修会を2ヶ月毎に計6回行った。年度末には日本緩和医療学会認定研修施設としても認定された。

#### 【レジメン審査室】

レジメン審査室では、基礎医学や臨床医学の専門家の慎重な審議のもとに、全ての化学療法をレジメン登録後に行うシステムを確立し、均一な質の高い化学療法の施行を実現している。レジメンの統一化・スリム化、緊急レジメンの運用などについても審議を行った。

#### 【がん研修室】

がん研修室では、がん診療に携わっている臨床科の医師、病理医、コメディカルが参加するカンサーボード（症例検討会）を定期開催している。また院内で開催される様々な癌関連研修会の後援をするとともに、がん研修室主催でがん教育講座を開催し、院内および2次医療圏の研修医および看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーなどのコメディカルへの研修を行った。

### (3) 東京女子医科大学・早稲田大学連携先端生命医科学研究教育施設

- ・医学・工学技術を駆使した最先端の医療技術開発の国際的拠点形成を目指し、本学と早稲田大学は、政策研究大学院大学跡地（新宿区若松町2-2、約7千㎡）に、地上3階・地下2階、延床面積約2万㎡の「東京女子医科大学・早稲田大学連携先端生命医科学研究教育施設」を建設した（平成20年3月竣工）。当施設は、両大学ともに文部科学省の「ハイテク・リサーチ・センター整備事業」に選定され、国内初の2大学連携施設としておおいに注目を集めている。
- ・研究面では、当施設に先端生命医科学センターを開設し、学内の共同研究拠点としてのみならず、早稲田大学の理学・工学者の知識・技術と融合させることを目指し、新たな先端医科学研究を集学的アプローチにより達成する体制の構築を推進した。また、産学連携の共同研究拠点として「メディカルイノベーションラボラトリー」を設置し、新ベンチャー技術の開発推進・新規産業の育成を図る。このユニークな取組みにより、21世紀の人類の予防、診断や治療に貢献することを目指す。

- ・教育面では、平成 22 年度に、生命科学・医工学といった新領域の研究分野で活躍できる人材の育成を目的とした大学院の新コースを開設する予定である。今年度は、具体的な運営体制や新カリキュラム等の検討を開始した。

## 新領域を創造する医理工連携研究教育拠点



### (4) 女性医師に対する生涯研鑽のための支援

#### 1) 女性医学研究者への支援

- ・文部科学省科学技術振興調整費による「女性研究者支援モデル育成」事業に、本学から提案した「保育とワークシェアによる女性医学研究者支援」プロジェクトが採択された（平成 18～20 年度）。「研究支援」「保育支援」「心のサポート」を中心に、子育て中の女性医学研究者が安心して勤務を継続できる環境を整備した。
- ・「研究支援」として、ワークシェアやフレックス制で勤務する研究者を毎年 5 名程度公募した。給与と研究費の支給によって研究の継続を支援し、学会発表や論文発表の機会を与えた。3 年間で 13 件の学会発表と 7 件の論文発表が行われた。
- ・「保育支援」として、本学既存の院内保育所に病児保育室を開設した。平成 18 年度には 197 名、平成 19 年度には 301 名、平成 20 年度には 412 名の利用があり、順調に病児保育室が稼働している。利用者へのアンケート調査をもとに内容を改善した。また、平成 20 年 12 月より東京都の「医師勤務環境改善事業」補助金に採択され、小学校 1 年から 3 年までを対象とし学童保育を開設した。



- ・「心のサポート」として、臨床心理士によるカウンセリングを実施し、気軽に相談できる体制を構築した。平成 19 年度には 16 件、平成 20 年度には 20 件の相談があった。
- ・女性医師支援交流会（年 1 回）他大学や学会との合同シンポジウムを開催した。講演および討論を通して、女性研究者が切磋琢磨し、先輩や同僚と意見交換ができる場を形成した。

## 2) 女性医師への再教育

- ・結婚、出産、育児等により臨床現場からいったん遠ざかった女性医師が復帰するために必要な講義、研修などの教育プログラムや臨床実地の場をオーダーメイドで立案、提供し、自信を持って臨床の場に復帰できるよう支援するために平成 18 年 11 月に「女性医師再教育センター」を設置。平成 21 年 3 月末までに 60 余名の申請者を受け入れた。
- ・平成 20 年 9 月には文部科学省の「社会人の学び直しニーズ対応教育推進事業」（平成 20～22 年度）に採択され、平成 21 年 1 月からは e-learning によるカリキュラムの提供も開始し、平成 21 年 3 月末までに約 600 名の登録があった。
- ・平成 20 年 11 月には「内視鏡ハンズオンワークショップ」を開催し、復職を希望する女性医師が模型を使った内視鏡の実習を行える機会を提供するなど、支援の方法にも新たな試みを取り入れ、活動の範囲を広げている。

## 3) 男女共同参画推進局の設置

- ・上述のとおり、本学ではかねてより女性医師・研究者の支援に取り組んできたが、その活動母体である「女性医師生涯研鑽支援委員会」、「女性医師再教育センター」、「女性医学研究者支援室」を発展的に統合し、支援対象を看護職等、他職種にも広げるため、「男女共同参画推進局」を立ち上げ、平成 21 年度から活動を開始することとなった。

## (5) マスタープラン 21 プロジェクト

- ・本学の中長期ビジョンである“ビジョン 2015”の実現（『5 つの重点課題』の解決）に向けて、理事会の最大のミッションとして PDCA サイクルに則り、総合的かつ継続的に活動を推進している。

- 5 つの重点課題：
1. 医療関係者の生涯教育システムの構築
  2. 先進的、全人的かつ安全な医療への取り組み強化
  3. 統合を目指し、協働できる風土・システムの構築
  4. 目的志向型運営システムの構築
  5. 組織運営の安定化

- ・達成期限の 2015（平成 27）年度までの 9 年間で 3 年毎に 3 期に分割し、第 1 期（2007～2009 年度）は、組織運営の根幹に関わる課題と、日々の業務効率の向上について優先して取り組んでいる。実施体制における実効性を確保するためにリーダーには理事を据え、下記の 10 の分科会において推進している。
- ・進捗状況については、理事会主催の進捗検討会議（平成 20 年度は 4 月 30 日、7 月 31 日、11 月 4 日の 3 回開催）と担当理事主催のビジョン達成会議（8 月を除く毎月開催）においてフォローした。

| 第 1 期（2007～2009 年度）分科会 |
|------------------------|
| 01．女子医大人の生涯教育システム分科会   |
| 02．情報伝達・共有分科会          |
| 03．事務系業務改革分科会          |
| 04．医療系業務改革分科会          |
| 05．ガバナンス分科会            |
| 06．施設建て替え計画策定分科会       |
| 07．講座制・診療科・センター再構築分科会  |
| 08．中長期財務基盤強化分科会        |
| 09．教員評価制度分科会           |
| 10．職員評価制度分科会           |



## 2. 「教育、研究、医療、経営・管理」領域別の事業報告

### 【 教育 】

#### (1) 医学部

##### 1) 学生の質の向上

- ・平成 21 年度の医学部定員増を見据え、指定校の定員を 3 名増員した。また、他大学と比べ初年度納入金の負担が多かったことから、最終年次までの全体配分を見直し、初年度納入金を減額することによって、受験生を増やし、質の高い学生を確保できる基盤を整えた。
- ・学生の入学から卒業までの評価の総合データベースを作成すべく、検討中。

##### 2) 教員の質の向上

- ・教員評価については、臨床における助教以上に対する導入の準備が整ったが、実施には至っていない。看護学部と共通の評価についても構築中。
- ・教員の倫理に関わる規程の整備については、利益相反に関わる規程と倫理綱領を策定中。

##### 3) カリキュラムの質の向上

- ・特色 GP (特色ある大学教育支援プログラム) に採択された「医のこころを実践する力を育むカリキュラム」(平成 19~21 年度)に基づくアウトカム評価を実施し、一般教養科目の充実を図った。
- ・チュートリアル教育で身につけた問題発見能力をベースに、臨床推論能力を育成するために TBL(team-based learning)を開発し、今年度 4 年生を対象にトライアルを実施した。

##### 4) 医学教育全般の評価

- ・自己評価制度の充実化を図るべく、教育業績データベースへのデータ蓄積を励行している。

##### 5) 環境の整備

- ・チュートリアル教育のための教員と教室の確保は、かねてからの課題であったが、平成 20 年度は本部棟 2 階にチュートリアル室を新設することができた。

#### (2) 看護学部

##### 1) 学生の質の向上

- ・受験時点における質の高い学生を確保すべく、広報活動を充実させた。具体的には通常の学校説明会に加え、業者と連携した学校説明会や高校での学校説明会の開催、河田町、大東両キャンパスでのオープンキャンパスなどを実施した。

## 2) 教員の質の向上

- ・教員採用に関する内規を作成。平成 20 年度から全教員を一般公募とし、採用内規に沿って教員採用を行った。
- ・ファカルティ・ディベロップメント (FD) 活動の一環として、外部の会議や研修会に参加し、学内においても FD セミナーを開催した。
- ・平成 21 年度から行う CDPBL (キャリア教育問題解決型学習) についての研修会を行った。

## 3) カリキュラムの質の向上

- ・社会状況の変化、学生の学習ニーズの変化に対応する科目としてキャリア発達論、在宅看護論、統合実習を新設した。さらに新しい医療に対応する科目としては先端医療における看護を新設し文部科学省へ変更申請し承認を得、平成 21 年度のカリキュラムを完成した。
- ・教育 GP における医学部との合同カリキュラムである「女性医療リーダー育成を目指す全学横断教育」の取り組みとしてキャリア発達論が 1 年から 4 年まで継続して行われるように組み入れた。平成 20 年度は、4 年生を対象にキャリア選択学習を行った。

## 4) 教育環境の整備

- ・学生数に見合う教室の確保については、ビジョン 2015 (06.施設建て替え計画策定分科会) で検討中。

### (3) 大学院 医学研究科

- ・早稲田大学大学院との新たな連携大学院設立の検討を行う教育部会を毎月実施した。
- ・遺伝子医療や再生医療に関わる研究を先端生命医科学研究センターで推進、順調に成果を上げている。
- ・医療練士大学院の活性化のためには大学院生の確保が課題であり、大学院委員会委員が各医局を訪れ、積極的な広報、勧誘活動を実施した。

### (4) 大学院 看護学研究科

- ・社会人の受け入れ増加のための広報活動の一環として、ホームページに修了生の論文課題名を掲載するなど、内容の充実に注力している。
- ・研究者評価のデータベース作成準備のため、博士論文公表に向けての原著論文の投稿について申し合わせを作成した。
- ・大学院博士前期課程の科目「先端医療」を早稲田大学大学院と合同講義開始した。さらに、ウーマンズヘルス演習 も IREI IMS (国際統合医科学インスティテュート) との合同講義として実施した。

## (5) 看護専門学校

### 1) 学生の質の向上

- ・受験者数を増やすことにより質の高い学生を確保することを目指して、ホームページのリニューアルや携帯サイトからホームページへのアクセスを可能にするなどの施策を実施したが、受験者増には結び付かなかった。今後は入試方法の見直しを行うとともに、学校訪問や学校説明会、オープンキャンパスの内容の見直しをするなどの施策により受験者数の増加を図る。
- ・看護のこころを実践する力を育むカリキュラムを推し進めるために、対人関係能力の育成や看護師としての態度を育成する教育を検討した結果、平成 21 年度入学生から適用の新たなカリキュラムに対人関係論 ・ を新たに設定した。

### 2) 教員の質の向上

- ・学生による授業評価については、評価項目を一部見直しのうえ、引き続き実施し、集計結果を各授業担当者と実習施設の指導者にフィードバックした。
- ・教育倫理のあり方については、他校の情報を収集中であり、次年度以降も引き続き学習を進める。

### 3) カリキュラムの質の向上

- ・看護師学校養成所指定規則改正に向け現行カリキュラムを検討し、改正主旨に即したカリキュラムを作成した結果、平成 20 年 12 月に文部科学省の承認を得ることができた。また、学則についても、これに伴い大幅に改定した。

### 4) 教育全般の評価

- ・平成 21 年度に実施予定の学校法人の「自己点検・評価」に向け、平成 20 年度の「入試」「国試」「学生受入状況」等の統計を整理した。
- ・第三者機関の評価受審については、受審している看護専門学校が皆無のため、当面見送りとした。

### 5) 教育環境の整備

- ・カリキュラム改正に伴う統合実習の場（夜勤実習、複数患者受け持ち実習）の確保については、実習内容の概要の検討とともに、引き続き実施していく。
- ・看護技術の修練と授業効果を高めるための技術教育備品（体験型モデル）と視聴覚教材については、補助金を活用した上で、当初計画通りの購入が完了した。
- ・経年劣化への対応のための建物及び空調機器等の修繕及び交換については、適宜実施中である。

**(6) 図書館**

- ・教育・学術情報のデジタル化促進のために、Wiley 社のデジタルコンテンツ (e-Journal) を導入し、利用者から有用性において高い評価を受けた。
- ・研究者の質の向上を支援するために、客観的評価のツールとして Web of Knowledge の再評価を実施。Impact Factor (文献引用率影響率) の有用性が再評価され、平成 21 年度も客観的評価のツールとして引き続き利用することとした。
- ・学内学術情報の充実を図るため、学術機関リポジトリを推進。ソフトウェア D-Space 等を利用して『東京女子医科大学雑誌』等を整備。平成 21 年 5 月の公開予定に向けてデータを蓄積した。
- ・大学 110 年史編纂準備の一環として、『大学ニュース』創刊以来 55 年間分のマイクロ化、データベース化に取り組んでいる。

**(7) 国際交流**

## 1) 交流協定校の拡大

- ・平成 20 年度、医学部においては米国マウントサイナイ医科大学への学生派遣を新たに開始 (交流協定締結は平成 21 年度に予定) 看護学部においては、ハワイ大学 Kapiolani Community College と協定を締結、香港 Polytechnic University との交流協定締結に向けて検討。

## 2) 医学部交換留学生

| 大学名          | 交換留学生の派遣 | 交換留学生の受け入れ |
|--------------|----------|------------|
| カーディフ大学      | 5 名      | 5 名        |
| ブリュッセル自由大学   | 5 名      | 5 名        |
| ハワイ大学        | 2 名      | 2 名        |
| コロンビア大学      | 2 名      | 1 名        |
| 上海交通大学       | 2 名      | 2 名        |
| 中国医科大学       | -        | 2 名        |
| 韓国梨花女子大学     | 2 名      | 5 名        |
| マルセイユ大学      | -        | 3 名        |
| マウントサイナイ医科大学 | 2 名      | -          |
| 合 計          | 20 名     | 25 名       |

## 3) 看護学部交換留学生、短期研修

| 大学名     | 短期研修            | 交換留学生の派遣 | 交換留学生の受け入れ     |
|---------|-----------------|----------|----------------|
| ハワイ大学   | 20名<br>(引率教員2名) | -        | -              |
| アルバーノ大学 | -               | 4名       | 8名<br>(引率教員2名) |

## 4) 海外訪問

- ・国際交流委員会室長が学生交換に関する打合せのため、韓国梨花女子大学を訪問  
(2009年3月)
- ・看護学部国際交流委員が学生交流に関する意見交換およびワークショップ参加のためアルバーノ大学を訪問。

## 5) 海外からの訪問者の受け入れ

|      | 国名・所属機関等                         | 訪問者                          | 年月      |
|------|----------------------------------|------------------------------|---------|
| 医学部  | 米国・マウントサイナイ医科大学                  | 教授1名                         | 平成20年4月 |
|      | 中国・中山大学嶺南学院                      | 医師・研究生計26名                   | 平成20年5月 |
|      | 香港・香港大学                          | 教員1名                         | 平成20年5月 |
|      | 中国・中国医科大学                        | 副校長他3名                       | 平成20年6月 |
|      | 韓国・梨花女子大学                        | 教員8名                         | 平成20年6月 |
|      | アフガニスタン・マリアム女学校                  | 高校生2名・引率教員1名(日本女子大附属高校関係者2名) | 平成21年1月 |
|      | アラブ諸国(エジプト・ヨルダン)                 | 医療・教育関係者VIP2名(橋本名誉教授引率)      | 平成21年2月 |
|      | 米国・UCLA小児病院                      | 医師1名                         | 平成21年3月 |
| 看護学部 | カナダ・モントリオール大学大学院                 | 博士課程学生1名                     | 平成20年7月 |
|      | 米国・アルバーノ大学                       | 国際交流部長1名                     | 平成21年2月 |
|      | 英国・NHS(National Health Services) | 医師1名                         | 平成21年3月 |

## 6) 台湾秀傳記念医院との交流

|         | 本学関係者表敬<br>訪問・招待講演 | 本学教員トレー<br>ニング参加 | 台湾秀傳記念医院医師<br>見学受入 / 会議出席 |    |
|---------|--------------------|------------------|---------------------------|----|
| 2008年4月 | 1名                 | -                | 3名                        | 2名 |
| 5月      | 3名                 | 2名               | -                         | -  |
| 8月      | -                  | -                | 1名                        | -  |
| 9月      | -                  | 3名               | -                         | -  |
| 11月     | -                  | -                | 6名                        | -  |
| 12月     | -                  | 2名               | -                         | -  |
| 2009年2月 | 5名                 | -                | -                         | -  |
| 3月      |                    |                  | 1名                        | -  |
| 合計      | 9名                 | 7名               | 11名                       | 2名 |

7) 前年度に引き続き、テキサス大学との遠隔授業を看護学部で実施した。

## (8) 公開講座

|      | 第27回公開医学講座            | 第26回公開健康講座     |
|------|-----------------------|----------------|
| 対象者  | 医師、コメディカル             | 一般の方           |
| 開催日  | 平成20年5月17日(土)         | 平成20年11月15日(土) |
| 開催場所 | 本学 弥生記念講堂             | 本学 弥生記念講堂      |
| テーマ  | 「低侵襲手術：<br>腹腔鏡手術の最前線」 | 「若返り医療 身体と心」   |
| 担当   | 全科横断                  | 形成外科 野崎幹弘教授    |
| 受講者数 | 約35名                  | 約250名          |

## 【 研究 】

### (1) 先端生命医科学研究所

- ・今年度より「東京女子医科大学・早稲田大学連携先端生命医科学研究教育施設」に拠点を移し、早稲田大学を始め、より多くの国内外機関と連携して、基礎研究に加え臨床応用や産業化を視野に入れながら、先端技術の教育・研究・開発を推進した。
- ・ハイテク・リサーチ・センター整備事業に採択された（平成 19～23 年度）「未来医療実現のための先端医科学研究センター」において、早稲田大学との連携を通じて医工連携システムを発展させ、画像監視下手術、ハイテク手術、遺伝子医療、再生医療等の研究を推進した。また、TWIns 施設内にセルプロセッシングセンターを整備した。
- ・細胞シート工学を中核技術とする再生医療の臨床応用を開始し、食道再生の臨床研究を順調に推進している。
- ・科学技術振興調整費の先端融合領域イノベーション創出拠点形成プログラムの中間審査を通過し、今後、7年間のプロジェクト継続が決定した（～27 年度）。また、協働企業としてオリンパス株式会社が新たに参加し、「再生医療本格化のための最先端技術融合拠点」として、細胞シートを用いた再生医療の本格化に向けた産学共同研究を推進した。
- ・上記以外の NEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）や経済産業省等からの各種受託研究を鋭意推進した。
- ・再生医療の国際的拠点形成に向けて、医学と工学の連携を基盤とする教育・研究を推進させ再生医療と先端医療の更なる実用化を目指すため、先端生命医科学専攻が中心となりグローバル COE 申請した。
- ・バイオメディカルカリキュラムおよび未来医学研究会の活動により、実践的な医工連携、産学連携を達成する人材育成を行う。受講生を増員すべく、ホームページを刷新して広報活動を開始すると同時に、新たなパンフレット作成した。
- ・先端医療の促進のためのスーパー医療特区を、大阪大学、東北大学、成育医療センター、長崎大学と連携して代表として提案し、「細胞シート再生医療実現プロジェクト」が採択された。細胞シート再生治療の開発の促進と世界への普及を目指す。

### (2) 総合研究所

- ・総合研究所は本学の研究のための共同利用施設で、学内外の多くの研究者に利用されてきたが、近年、その利用者数は減少している。利用者数の減少は研究のアクティビティーの減少に繋がるものと考え、総合研究所としてできることを見直した。
- ・実験室のスペースを確保して、顕微鏡や分析機器を再配置することで、利便性を高めるよう努めた。
- ・統計解析を専門とする研究者を配置し、学内外の研究者との共同研究および大学院生指導を充実させ、統計解析の講習会を開催した。



- ・研究機器については、Bio-Rad 社製タンパク質相互作用解析システムリアルタイム ProteOn を設置した。さらに Leica 社製の凍結切片の作成も可能な滑走式マイクロトームを設置し、利用者のニーズにに応じている。
- ・新規の機器が増えたことにより、主に若手研究者を対象にしたテクニカルセミナーなどを月 1 回程度開催し、利用者の便宜を図っている。

### (3) 実験動物中央施設

- ・動物実験の倫理と実験動物福祉に関する教育・啓蒙の一環として、医学部 1 年生に動物実験（実習）の際の基本的姿勢を伝承し講義後にアンケートでその内容を確認した。大学院生には初期カリキュラムを通じて動物福祉に関わる内容、動物を用いた医学研究の結果に及ぼす諸条件、代表的な医用動物の構造・機能に関わる基礎知識などの重点講義を行いアンケートでその内容を確認した。
- ・施設利用者に対する説明会では、文部科学省の基本方針・日本学会議のガイドラインで定められた教育訓練として「動物実験の倫理・実験動物の福祉」を加えた。
- ・各種動物実験関連委員会に協力し、動物実験講習会における説明、実験計画書の審査、実験者への助言、学内動物室の点検等を実施した。
- ・感染症防止を主体とした実験動物の質的管理の充実を図った。
- ・飼育室ならびに関連設備の見直しを実施し、実験依頼が多くなってきた遺伝子組換えマウスに関わる繁殖室と飼育室を整備した。
- ・関連法規改正等に伴う本施設の対応として「動物の愛護および管理に関する法律」に基づいた文科省の基本方針を踏まえ本学で策定された機関内規程を遵守した運営を行った。

### (4) 国際統合医科学インスティテュート (IREIIMS)

科学技術振興調整費の戦略的研究拠点育成プログラム（スーパーCOE）に「国際統合医療研究・人材育成拠点の創成」が採択され（平成 17～21 年度）、4 年度目の平成 20 年度は、前年度に受けた中間評価の評価結果を踏まえ、統合医科学の研究・人材育成拠点の創成に向けて研究、人材育成等の諸活動を積極的に推進した。

#### 1) 研究分野

##### 【疾患の包括的遺伝子細胞研究】

4,000 検体のうち 3,500 検体についての疾患遺伝子の解析を行い、各種遺伝子変異が検出され、その機能解析を行った。難治がん、先天性疾患細胞のゲノムの構造的・機能的異常を網羅的に解析し、特異的な異常を検出した。膵臓がんにおいて、がん細胞の生存、増殖、造腫瘍性に重要な役割を担う分子を同定し、診断、治療、予防に役立てる研究を行っている。



**【超早期診断のための CT、MRI、PET 等の分子イメージング技術の開発に関する研究】**

試作した全身スクリーニング用ベッドコイルで、ベッド姿勢の位置情報のログ取得のためのソフトウェア等を開発し、臨床現場で検証中である。3T の MRI で MRS の早期スクリーニングの検討を開始し、実証研究中である。早期診断技術と治療の連携のためのナビ技術について、シミュレーションを実施している。

**【高分子ミセルによる抗がん剤のターゲティング、心血管障害治療の基礎研究】**

合成レチノイド Am80 を封入したミセルでは、疎水性アミンを共封入することで薬物放出の徐放化に成功し、マウスのがん腹膜播種モデルで顕著ながん成長抑制作用を得た。高分子ミセル型 MRI 造影剤を開発し、それをを用いて、マウス C26 固形がんに対し、効率的ながんターゲティングを達成し、画像診断と化学療法の両方に高分子ミセルキャリアーを使用する新しい療法が可能となった。

**【心血管障害治療の基礎的研究】**

拍動心筋細胞に分化できる LA-PC(left atrium derived pluripotent cell)を成体ラット左心房組織から樹立した。また、効率よく成体心臓由来幹細胞を生体に移植するため、コラーゲンスキャフォールドを用いた三次元培養法を開発した。従来の二次元培養法より、有意に細胞増殖を促進することを確認した。再生血管については、遠隔成績を調べる目的の動物実験を行い、長期間良好な開存性を認めている。

**【疾患の遺伝子変異解析用 DNA チップの開発】**

前年度に作製した QT 延長症候群の原因遺伝子のひとつである KVLQT1 遺伝子のエクソン 6~8 領域のリシークエンシング用 DNA チップの検証を行い、問題点の改良を行った。また、疾患毎に、疾患の原因となる各遺伝子中の変異を検索するためのシステムの検討を行い、基本的な原理を構築した。

**【特定保健用食品、栄養機能食品、漢方薬などの科学的検証による有効性・信頼性評価】**

アガリクスの坑動脈硬化腫作用とその本体を明らかにすること、またバナバ茶、漢方薬の続命湯肥大心作用機序を明らかにすることを目標とした。その結果アガリクスに関しては細胞内の Erk 活性に影響を与えるエストロゲン様物質がその本体であり、その物質の単離にほぼ成功した。バナバ茶の培養心筋細胞に対する薬理作用については次第に明らかになりつつある。

**2) 人材育成分野**

- ・ 統合医科学情報基盤 (CIMI) を活用した人材育成コースをテュートリアル形式で実施し、特別講義のほか、遺伝子工学的手法の理解を深める目的に研究室見学を取り入れるなどの工夫をした。
- ・ 第 6 期、第 7 期を合わせ受講者総数は 65 名 (外国人 6 名) で、全ての症例を修了した者は 53 名 (82%) であった。

### 3) 運営体制

- ・中間評価の評価結果を踏まえ、経営戦略室委員の増員などにより組織運営体制の強化を図るとともに、プログラム終了後の自立体制構築に向けて、研究成果を織り込んだ健康診断およびクリニック事業立ち上げの可能性精査、既存学内組織での代替サービス提供の可能性の検討を行った。

## 【 医療 】

### (1) 東京女子医科大学病院

#### 1) 質の高い安全な医療の提供

- ・先進医療の領域において、細胞シートを利用した食道の再生医療に関する臨床応用が実施されたり、認知症の早期確定診断に向けて PET 検査のデータベースとして、年齢別正常脳分布像の解析が終了するなどの取り組みがなされた。
- ・専門医療の推進では、「がんセンター」において、がん登録、外来化学療法、レジメン審査、緩和ケアなどの運用が開始された。また、平成 21 年 4 月からは日本緩和医療学会認定研修施設にも認定された。
- ・2 次救急への対応として、ER 部門設置の検討をしているが、その設立に先立って東京都の脳卒中救急搬送体制における「t-PA 治療（血栓溶解療法）可能な脳卒中急性期医療機関」に指定された。
- ・医療機器の標準化、中央管理化を強化し、合理化のみならず安全な運用と保守点検の確実性の向上を推進した。
- ・医療安全講習会の受講者管理のためのシステム構築が完了し、未受講者の管理が容易になった。また、医療安全とは別の見地で病院運営の適正性を評価するために、病院監査室の監査が 3 回に亘って実施され、概ね適正な運営がなされていることが確認された。

#### 2) 患者さんの満足度の向上

- ・患者さんとのコミュニケーション強化の一環として、ホームページ上に一般参加ができる講演会などの情報を掲載したり、がんセンターや医療社会福祉室などのコンテンツを充実し、広報活動の強化を図った。
- ・患者さんからの要望の多い、待ち時間への対処として、「ポケベル呼び出し」を試行した。良い評価をいただいた一方、抜本的な解決を要望される声も多く承り、引き続きの検討課題となった。
- ・コーヒーショップの開設については、平成 21 年 4 月にオープンの運びとなった。

### 3) 医療環境の改善と人材育成

- ・老朽化した建物の改修に併せて配置の見直しも行い、ペインクリニックの移設や NICU の増床工事、外来化学療法室の新設などを実施した。
- ・平成 22 年度施行の新臨床研修制度を前提にした専門コースを検討したり、指導医講習会実施者にフォローアップ講習会を実施するなど、研修体制の整備・強化に努めた。
- ・モチベーションアップと組織の活性化を目的に臨床医師評価を実施。これにより全病院職員に対して評価制度が導入されることとなった。
- ・接遇インストラクターに現場を視察してもらい、問題点を踏まえ、延べ 9 回の接遇マナー教育を実施した。

### 4) 経営基盤の安定

- ・病院経営管理資料の整備・充実を望む声が多く、情報システム部の協力のもと、診療研究支援関連のデータ分析における体制を強化した。
- ・収支改善への意識づけのために、診療科ごとの病床稼働率や年間事業計画の達成率を月次でフィードバックした。
- ・DPC コーディング適正委員会を開催するなど、医事課職員の研修と教育を強化、保険請求の精度向上を図った。

### 5) その他

- ・保険請求のオンライン化については、平成 21 年度上半期の導入を目標に開発・テスト中。

## (2) 東医療センター

### 1) 質の高い安全な医療の提供

- ・先端医療・専門医療推進のための施策として、平成 21 年 1 月に「心臓血管診療部」を発足させたことにより、心不全治療外来、心臓移植外来という疾患別専門外来を設置することができた。外来化学療法部門の設置についても大枠が固まってきており、開設次第、現在外科で施行しているワクチン療法外来との連携を図る予定。また、新しい治療法と研究の推進のために、血液浄化部 CAPD 部門に PD 研修ユニットを設立した。
- ・平成 21 年 3 月末に周産期部門が拡張され、新生児専門医も招聘した。今後、専門医取得に向けた医師の教育が充実できるものと思われる。
- ・平成 21 年 1 月に PACS システム（フィルムレス化）の導入が承認されたため、この安定稼働後、オーダリングシステムの導入については検討していく。
- ・医療安全講習会や院内感染対策講習会の実施、医療安全対策室を中心とした定期的な院内ラウンドの実施、等により医療安全体制をより一層強化した。

## 2) 患者さんの満足度の向上

- ・日暮里クリニックおよび女性専門外来の開設についてなどの広報活動を強化した。
- ・女性専門外来の待合室に女性医療、性差医療についての図書コーナーを設置し、好評をいただいた。
- ・防犯体制強化のため、医局棟に防犯カメラを設置した。

## 3) 医療環境の改善と人材育成

- ・院内保育施設や小児科病棟、カンファレンス室や研究室の充実のために、建築を検討した南病棟（仮称）については、次年度以降への継続課題となったが、周産期部門については既存施設内で増床がなされた。
- ・臨床研修プログラムでは、総合内科として全科を研修できることが当センターの特徴であり、それを活かすために各科毎に作成された研修マニュアルを統合すべく、改訂を実施した。
- ・今年入職した看護師を対象にマナー講習会を開催するなど、マナー・接遇の向上に注力した。

## 4) 経営基盤の安定

- ・病院管理会計を見直し、より実体に沿った各科別収支実績表を検討するために、財務会計と収支実績の対応表を作成した。
- ・荒川区医師会との連携を強化するためにフォーラムを2回開催し、広報誌を配布した。
- ・購買業務効率化のために購買課請求伝票の見直しを実施し、1人平均3時間の残業時間削減を実現した。
- ・医事課職員の人材育成推進とレセプトチェックシステム活用により、返戻は減少傾向となった。

## (3) 成人医学センター

- ・成人医学センターの「医療安全対策指針」と「院内感染対策指針」を作成し、医療安全体制の強化に努めた。
- ・受付開始・終了時間の見直し、診察予約枠・検査枠の増設、診療室の増設、採血業務の早朝実施などの改善に努め、患者サービスの向上を図った。
- ・健診のオプション検査項目の追加、企業健診の受け入れの拡充、平日・土曜日の内視鏡検査枠の拡大などの健診内容の改善に努めるなど積極的な事業展開を図った。
- ・当センターの健診に対する認知度を高めるため、本院や近隣病院にパンフレットを配布したり、本院の代表番号に健診に関する問い合わせがあった場合、当センターへ誘導しても

らうなどの対応を行った。

- ・ホームページのリニューアルを検討しており、次年度の公開を予定している。
- ・病院購買課と交渉し、医療材料の小口払い出しの運用を開始、適正な在庫管理に勤めた。

#### (4) 膠原病リウマチ痛風センター

- ・関節リウマチの疫学調査である IORRA (独自の大規模臨床統計調査) は 8 年目を迎え、順調にデータベースの蓄積と解析、その臨床現場へのフィードバックがなされており、疫学統計技術を用いた高度な医療の推進に貢献している。
- ・臨床データベースを解析し、医師の品質管理 (QCD: Quality control of doctors) に使うプロジェクトも進行し、標準化が確認された。
- ・個人ゲノム情報に基づき薬剤を至適決定するオーダーメイド医療の研究を継続し、リウマチ性疾患の治療技術の向上に取り組んだ。今後も積極的に研究を継続させていく。
- ・生物学的製剤投与マニュアルを改訂し、医療安全体制の強化を図った。

#### (5) 東洋医学研究所

- ・近隣の関連医療施設である東医療センター、日暮里クリニックとの間で検査依頼等の連携を強化した。
- ・移転後間もないため、地域における認知度向上を図るべく、公営バス広告、雑誌掲載など積極的に広報活動を推進した。また、研究所という名前に重厚なイメージがあったため、クリニックであることがわかるよう看板や屋外サイン等を変更した。
- ・平成 20 年 6 月より漢方養生ドックを開設したがマンパワー不足により、計画通りの診療枠が確保できなかった。患者さんの需要は強いいため、今後、若手医師の育成を図るなど受け入れ態勢の整備に努める。
- ・鍼灸臨床研修医 (3 名) の研修が終了した。また、本学学生および看護学大学院生に対する実習教育を行った。

#### (6) 青山病院

- ・動脈硬化の総合的診断においては、多系列 CT による冠動脈造影検査が心臓カテーテル検査によらない非侵襲的診断法として確立されるとともに、血管内皮機能検査も導入された。今後も動脈硬化予防とその関連病態である肥満、メタボリック症候群、無呼吸症候群等に対する検査・診断の充実を図っていく。
- ・関節リウマチや膠原病疾患などリスクの高い症例に対する感染や塞栓予防などの周術期管理が高いレベルで実施されており、今後は対外的にも指導していく。



- ・カプセル内視鏡を新たに導入し、小腸出血患者に対する検査を充実させた。
- ・糖尿病診断を充実させるため、糖尿病センターと連携し専門医の常駐体制を整えた。
- ・リウマチ膠原病疾患専門医の育成のため、後期研修医2名と研究生1名を受け入れた。また、関節外科専門医の育成のため、後期研修医を含む若い医師への教育も積極的に行っている。
- ・青山病院の方向性については、引き続き本部や関係施設との協議を続けており、継続的な検討課題である。

## (7) 女性生涯健康センター

- ・女性生涯医療（女性のためのGP医療）の確立と推進に尽力した。具体的には、ウェルエイジング部門においては、平成20年10月にウィメンズヘルスチェックを稼働させることができた。また同部門では、青山女性医療研究所と連携を取りつつ進んでおり、加齢皮膚検査の計測は青山女性医療研究所で重点的に行うこととした。トラウマ治療については、専門的なトラウマ焦点認知療法(PE)を行うべく、医師、心理士のトレーニングが終了し、治療介入研究も順調に推移している。

また、女性総合外来の確立については、医療技術の標準化がまだ不十分で、次年度への継続課題となった。

- ・教育や人材育成の面においては、日本総合病院精神医学会等と連携した卒後教育や女性外来短期型専門医育成コースは継続的に行われた。また、女性医師再教育センターからの研修医も3名を受け入れ、うち2名が嘱託医として臨床に携わった。
- ・本学学生や本院看護師に対する健康管理センター的な役割がますます大きくなっている。本学としての健康管理センター構想の検討にも参画中。
- ・携帯サイトを利用した「健康コンシェルジュ」については、導入に向け第二次フィージビリティまで実施したが、外部経済環境の悪化に伴い一旦中断とした。

## (8) 青山女性・自然医療研究所

### 1) 女性医療

- ・ウェルエイジング部門において、女性生涯センターとの連携を構築した。しかし、外来指導までは至らず、次年度への継続課題となった。
- ・国内外で美容医療に関する研究発表を実施し、本分野におけるプレゼンスを高めた。
- ・患者さんへは医師の説明後に必ず看護師と患者さんのみで話す時間を設けており、この体制は大変好評を得ている。

### 2) 自然医療

- ・NPO 統合医療塾、日本統合医療学会と協力して、統合医療に関する教育プログラムの充実

を図ってきたが、統合医療塾プログラムが日本統合医療学会の指導医養成プログラムとなったため、内容の見直しを実施中。同プログラムは本学看護学部のみならず、広島大学、防衛大など他大学での講義にも拡大。次年度は医学部でも講義を行うことが決定した。

- ・学内の関連医療施設との連携を強化した。

## (9) 遺伝子医療センター

- ・日本人類遺伝学会、日本遺伝子診療学会、日本遺伝カウンセリング学会、全国遺伝子診療部門連絡会議などを通じた全国レベルの連携により、遺伝子医療、遺伝子検査の安全な臨床応用の拡がりや遺伝子医療実施施設の経済基盤の安定化を推進した。
- ・専任の臨床心理士が在籍する本センターの特徴を活かし、遺伝子検査前後の心理的ケア、ソーシャルワーカーとの協力による患者家族への社会的支援に向けた整備、小児遺伝性疾患における発達障害の心理カウンセリングなどを行った。
- ・臨床遺伝専門医の研修施設として研修希望者5名を受け入れ、内1名が臨床遺伝専門医を取得した。
- ・非医師による認定遺伝カウンセラーの養成のため、大学院遺伝カウンセリング専門課程を開始した。
- ・遺伝子研究の進歩を、ベンチ（研究室）からベッドサイド（診療現場）へ応用すべく、厚生労働省神経疾患委託研究「筋ジストロフィーの病態と治療の研究」班分担研究および厚生労働省神経変性班分担研究「脊髄性筋萎縮症の臨床と分子遺伝学的研究および治療研究」に取り組み、順調な結果を残した。また、オーダーメイド医療における遺伝カウンセリングのあり方について、膠原病リウマチ痛風センターとの共同研究を推進した。
- ・女性医学研究者支援室との連携を図り、特任助教2名を受け入れた。

## (10) 八千代医療センター

### 1) 質の高い安全な医療の提供

- ・医療の標準化のために推し進めてきたクリニカルパスは院内での使用率が約60%まで向上。院外とのパス連携にも注力しており、八千代地区脳卒中連携の会を立ち上げ、脳卒中連携パスの運用を開始したほか、糖尿病地域連携パスの試験運用も開始した。
- ・八千代市におけるメディカルコントローラとしての役割と機能を果たすべく、八千代医師会や消防署との連携を密にし、救急医療体制の強化維持を図っている。
- ・初期研修医に対し、総合・救急診療科へのローテーションを必修とし、初療医の育成を図っている。
- ・複数科医師参加による症例検討会の開催などにより、チーム医療、診療科連携、リスク管理、安全な医療提供をさらに充実させている。

- ・地域連携医療機関との連携を推進するため、「拡大医療連携会議」を開催した。
- 2) 患者さんの満足度の向上
- ・待ち時間有効利用のため、外来待合にあるインフォメーションボードに病院からの情報を随時提供している。
  - ・健康情報発信基地としての病院機能を発揮すべく、サマーフェスタ、ウィンターフェスタとして年2回の公開健康講座を中心とした市民参加型イベントの形で実施しており、サマーフェスタには約4,000人の方が、ウィンターフェスタには延1,000人の一般方が参加した。
- 3) 医療環境の改善と人材育成
- ・各学会の専門医・認定医指定研修医療機関になるよう各診療科長と連携して申請を進め、平成21年3月末現在で33の学会から施設認定を取得した。
  - ・新人看護師等の応募を推進すること、ならびに看護師のスキルアップを目指し、研修プログラムの充実を図り、その結果が看護の現場で効果的に生かされるようになってきた。
  - ・各コメディカル部門においても研修への派遣、実習生の受け入れ、学会での発表等、教育を充実し、人材の育成に努めた。
  - ・積極的に看護学生や各種医療技術学生等の実習を受け入れ、社会貢献にも尽力した。
- 4) 経営基盤の安定
- ・開院以来の課題であった全床開床が、GCUの13床を除き平成21年4月に達成される見通しがついた。
  - ・救急基幹病院としてメディカルコントロール体制を充実させるため、空き病床管理・救急入院用病床管理の効率的運営を目的にベッドコントロール室を強化。病床稼働率92%前後を維持できる体制を構築した。
  - ・市の広報誌「やちよ」や、病院だより「やちよグリーンズニュース」を通して、当院の活動実績を地域住民に積極的に広報し、地域に根ざした医療機関としての周知に努めた。

## 【 経営・管理 】

### (1) 経営計画の策定

- ・法人全体の将来構想の一環として、老朽化し、配置面においても非効率となっている諸施設の移転・建替えを検討した。医療系施設とそれ以外の施設に分け、諸案のメリット・デメリット、教育施設や医療施設の今後の在り方等、幅広く検討を重ねたが、学内外へ公表ができる段階までには至らず、次年度以降も引き続き検討することとなった。



- ・法人としての方向性、認識を共有化するために、「教育」、「研究」、「医療」、「経営・管理」全ての領域において、担当理事、施設長、部署長を交え、事業計画に関する検討を個別に実施し、アウトカムのイメージを明確化した。今後は、法人や領域毎の計画が個人レベルにまで浸透するよう、事業計画と個人目標管理制度との連携を強めていく。

## (2) 財政基盤の強化

- ・PDCA サイクルの実効性を高めるため、財政への影響が大きい医療施設への事業計画のレビューを隔月から毎月実施に変更するとともに、施設間での情報共有が行えるようにした。また、予算と実績との乖離の要因分析を行うため、3病院（東京女子医科大学病院、東医療センター、八千代医療センター）については別途詳細な検討会を実施した。
- ・新経理システムの稼働により、部署別の予算差引簿ならびに勘定科目別明細の出力が可能になったことから、部署長への月次配布を行い、内容精査を充実させた。
- ・プロジェクト管理の精緻化を図った。現在進行中の大型プロジェクトである第1病棟建築も中間レビューを行い、当初計画時の予算に基づいて進行している。
- ・競争的研究資金も含めた公的補助金や外部資金の積極的な獲得を目指し、学術振興会から人員を招いて科研費の説明会を実施するなど、学内関連部署への啓蒙活動を継続的に実施した。
- ・競争的研究資金の適正管理を徹底するために、支出基準を制定した。

## (3) 組織・制度の見直し

- ・権限の明確化と意思決定の迅速化を目指し、学校法人の基本的機関の在り方を見直した結果、執行担当理事制の導入に至った。具体的には「教育」、「研究」、「医療施設」、「経営・管理」担当の執行理事を定め、大幅に権限を委譲するとともに、「常務会」を「執行運営会議」に改編し、ガバナンスの強化を図った。  
但し、これに伴う決裁権限規程や会議体への付議基準の具体的な見直しが次年度となったため、実際の運用は規程や付議基準の見直し案制定と同時にされる予定である。
- ・平成20年4月に内部監査室が立ち上げられ、内部監査の実施や内部通報制度の制定などコンプライアンス推進体制が強化された。
- ・倫理綱領案を作成し、審査諸会議への展開を実施した。平成21年度早期の制定を目指す。
- ・研究活動の支援や知的財産管理、利益相反管理、産学連携管理等を目的として、研究支援部（仮称）の立ち上げを検討。概略は決定しており、平成21年度早々の機関決定を目指す。

## (4) 人事制度の充実

- ・人事評価制度の第一段階として「管理職評価」の検討を行い、導入の準備はできた。平成

21年度にトライアルを実施する予定。

- ・人材教育の試みとして医師・教育職を除く全職員を対象にした通信教育講座を初めて開講した。568名の申込みがあり、内、256名が年度内に修了した。
- ・看護師採用に関する全学的な一括採用を目指して、「看護師雇用対策チーム」の立ち上げを検討、平成21年5月からの稼働が決定した。また、看護師不足対策の一環として臨時職員の看護師と看護助手の時給の見直しを実施した。
- ・職員の労働時間管理については、かねて検討課題としてきたタイムレコーダーの導入は断念したが、時間外の抑制には奏功し、事務局レベルで前年比2,200万円の時間外手当削減が実現できた。
- ・職員の健康管理の充実を目的に健康管理センターの立ち上げを検討、次年度以降への継続課題とした。

#### (5) 情報戦略の策定

- ・ITガバナンス体制構築のため、情報システム化案件情報を本部に集約した。
- ・情報セキュリティ対策の一環としてスパムメール対策を実施。月間2,700万通あった不要メールを98.5%削減した。
- ・ネットワークセキュリティ強化のため、中央校舎を手始めにスイッチ(ネットワークの管理基盤)の更新に着手。トラブル発生時の影響範囲の絞り込みを図った。
- ・法規制対応を睨み、オンラインレセプト請求への対応に着手した。
- ・情報の共有化推進のため、ビジョン2015における情報共有分科会とも連携し、学内イントラに大学ニュースなどコンテンツの新規掲載を行った。

#### (6) 購買の合理化

- ・購買課を有する医療施設とそれ以外の購買を管轄する用度部との連携を密にし適切な購買行動を取れるよう、定期的な会議開催により情報共有を行っている。
- ・購買・管財課から病院購買課へ一部業務の移管を実施した。引き続き中長期的な課題として、組織の見直しを含めた全学的に最適な購買体制の検討を続ける。
- ・教育・研究活動に対する支援強化の一環として、新たに3つの委託・補助事業に関する物品購入支援を実施した。

#### (7) ファシリティマネジメント

- ・防災、防犯業務を主体とした危機管理体制の見直し、および安全管理の徹底・推進を図ってきた結果、平成20年8月に発生した突発的なゲリラ集中豪雨等に対し適切な対応をと

ることができた。

- ・ライフラインの保守管理については、経費と効果のバランスに考慮し、年度予算を大幅に下回る金額で対処することができた。
- ・早稲田大学との連携先端生命医科学研究教育施設が優良防火対象建物認定（優マーク）を取得した。
- ・数年に亘って進めてきた各種省エネ活動が評価され、経済産業省主催の『省エネ優秀事例全国大会』において「省エネルギーセンター会長賞」を受賞。また、本学のエネルギー管理責任者がその功績により「関東経済産業局長賞」を受賞した。
- ・自衛消防隊の再編・強化を進め、各棟・各階に3名1組の実戦配備のため73組を編成、その全てに対する訓練を終了した。

### 3. 認可事項等

#### (1) 寄附行為の一部改訂

- ・寄附行為第15条の理事長職務の代理について「理事長がやむを得ない事由により職務の遂行に支障があるとき、および理事長が欠けたときは、予め理事長が指名した理事がその職務を代行する」に改訂し、第2項として「本条の場合においては、理事長の職務を代行する理事がこの法人を代表する」を加えた改訂を行い、文部科学省に寄附行為変更認可申請を行い、平成20年9月5日承認された。
- ・寄附行為第8条第4項2号について教授選出の理事を1名増員し、看護学部長の指名を可能とする寄附行為の改訂を行い、文部科学省に寄附行為変更認可申請を行い、平成20年9月5日承認された。

#### (2) 大学学則、大学院学則、看護専門学校学則の一部改訂

- ・看護学部において、保健師助産師看護師養成所指定規則等の改正に伴い、『東京女子医科大学学則』{「第9条関係別表（授業科目および単位数、コマ数）」ならびに「第10条関係 授業科目履修に関する規程（看護学部）」について大学学則改訂を行い、文部科学省に届出を行った。
- ・看護学部学納金に関して、初年度の納入金額を減額し、2年次以降で均等配分した「第30条 別表（授業料、その他納入金）」の改訂を行い、文部科学省に届出を行った。
- ・看護専門学校において、保健師助産師看護師養成所指定規則等の改正に伴い、カリキュラムならびに現状に即した内容に見直した学則改訂を行い、文部科学省に届出を行った。
- ・大学院看護学研究科において、博士後期課程の実践看護学分野の「母子看護学」を、「ウーマンズヘルス」と「小児看護学」に分離・設置することに伴い、大学院学則第8条を

改訂し、文部科学省に届出を行った。

- ・医学部入学定員について、地域偏在による医師不足と特定の診療科の医師不足が社会問題となっている状況において、文部科学省から医師確保の協力要請があったことを踏まえ、医学教育の質を十分確保しつつ医学部定員増加を行うための問題点と個々の対応策を検討した結果を説明し、医学部の入学者定員を増加させること、増員に伴い学則を変更し、文部科学省に届出を行った。

医学部の入学定員を、平成 21 年度より 100 名から 110 名とし、10 名を増員する。

医学部の収容定員を 600 名から 660 名とし、60 名の増員とする。

医学部と看護学部合計の入学定員を 185 名から 195 名とし、収容定員を 960 名から 1,020 名とする。

- ・医学部学費について、今般の医師確保対策実施に伴い、医学部の優秀な学生確保対策の一つとして、学費の見直しをした結果、平成 21 年度入学生は 6 年間総額を変えずに入学金納入額を 219 万円減額し、2 年次以降の納入額を毎年 43.8 万円増額する学費改定を行うこと、改定に伴い東京女子医科大学学則を改訂し、文部科学省に届出を行った。
- ・学則第 33 条および第 53 条の改訂を行い、文部科学省に届出を行った。

第 33 条：外国人留学生を入学させる場合、定員外とするとなっているが、文部科学省の指示により定員内に入れることになったため、この記載を削除する。

第 53 条：学則改正時の承認機関について、両学部教授会ならびに大学協議会となっているが、大学協議会の開催が不定期のため、現状に即し両学部教授会のみとする。

## ・財務の概要

平成20年度は、予算においては、帰属収支差額で1億7千7百万円の収入超過を見込み、5年続いた赤字状態からの脱却を目指し、積極的な収支改善を行うとの強い決意のもと事業を推進してまいりました。

経費削減等の成果はありましたが、収入確保が達成出来ず、特に医療収入が対前年度より回復はしたものの、予算に対しては43億4千万円の未達になりました。また、米国のサブプライム問題を契機とした金融危機による影響を受け、保有する有価証券の時価評価が下落したことから、学校法人会計基準に従い、期末保有有価証券評価損を5億8千8百万円計上しました。

以上の結果、平成20年度決算は、帰属収支差額で19億7千2百万円の支出超過、消費収支差額では89億3千2百万円の支出超過となりました。

### 1.消費収支計算書

収入の部 (単位：百万円)

| 科 目      | 20年度予算 | 20年度決算 | 差 額   |
|----------|--------|--------|-------|
| 学生生徒等納付金 | 4,291  | 4,311  | 20    |
| 手数料      | 118    | 120    | 2     |
| 寄付金      | 1,142  | 1,310  | 168   |
| 補助金      | 4,755  | 5,096  | 341   |
| 資産運用収入   | 1,427  | 933    | 494   |
| 資産売却差額   | 0      | 4      | 4     |
| 事業収入     | 1,936  | 2,344  | 407   |
| 医療収入     | 71,152 | 66,811 | 4,340 |
| 雑収入      | 1,105  | 924    | 180   |
| 帰属収入合計   | 85,928 | 81,858 | 4,070 |
| 基本金組入額   | 8,332  | 6,959  | 1,373 |
| 消費収入     | 77,595 | 74,898 | 2,697 |

経常費補助金が増加した他、周産期母子医療センター設備整備費補助金の受入れ等により予算を上回りました。

各医療施設とも平均患者数が目標数値に達することができず、予算を大幅に下回る結果となりました。

医療収入が目標を大きく下回ったことにより借入金や預り金などの負債とならない収入を表す帰属収入は予算を40億7千万円下回る818億5千8百万円となりました。

基本金組入額は八千代医療センター、連携研究教育施設などの過年度未組入高の組入れにより69億5千9百万円となりました。

支出の部

| 科 目        | 20年度予算 | 20年度決算 | 差 額   |
|------------|--------|--------|-------|
| 人件費        | 39,665 | 38,489 | 1,175 |
| 教育研究経費     | 35,846 | 34,970 | 876   |
| 管理経費       | 2,966  | 2,842  | 124   |
| 減価償却費      | 6,742  | 6,523  | 219   |
| 借入金等利息     | 367    | 299    | 67    |
| 資産処分差額     | 71     | 633    | 562   |
| 徴収不能引当金繰入額 | 90     | 72     | 18    |
|            |        |        |       |
|            |        |        |       |
| 消費支出合計     | 85,750 | 83,831 | 1,919 |
| 当年度消費支出超過額 | 8,155  | 8,932  | 773   |
| 合 計        | 77,595 | 74,898 | 2,697 |

減価償却費は、早稲田大学との連携研究教育施設開設により昨年度と比べ増加していますが、建物および医療機器などの購入額が予算を下回ったことにより、予算に対して2億1千9百万円下回りました。

期末における有価証券評価損を計上したため、予算に対して5億6千2百万円上回りました。

帰属収支差額は20年度の目標である1億7千7百万円の収入超過に対して、21億5千万円下回る19億7千2百万円となりました。

|             |     |       |       |
|-------------|-----|-------|-------|
| 帰属収入 - 消費支出 | 177 | 1,972 | 2,150 |
|-------------|-----|-------|-------|

(注記)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示。

## 2. 資金収支計算書

収入の部 (単位：百万円)

| 科 目        | 20年度予算  | 20年度決算 | 差 額   |
|------------|---------|--------|-------|
| 学生生徒等納付金収入 | 4,291   | 4,311  | 20    |
| 手数料収入      | 118     | 120    | 2     |
| 寄付金収入      | 1,070   | 1,200  | 130   |
| 補助金収入      | 4,755   | 5,096  | 341   |
| 資産運用収入     | 1,427   | 933    | 494   |
| 資産売却収入     | 2,500   | 114    | 2,385 |
| 事業収入       | 1,936   | 2,344  | 407   |
| 医療収入       | 71,152  | 66,811 | 4,340 |
| 雑収入        | 1,105   | 923    | 181   |
| 借入金等収入     | 8,636   | 8,608  | 28    |
| 前受金収入      | 1,709   | 1,291  | 418   |
| その他の収入     | 15,319  | 17,937 | 2,618 |
| 資金収入調整勘定   | 12,789  | 13,583 | 793   |
| 前年度繰越支払資金  | 2,422   | 2,422  | 0     |
| 合 計        | 103,655 | 98,533 | 5,122 |

がんセンターへの寄付金の他、受配者指定寄付が増加したことにより予算を上回りました。消費収支計算書には現物寄付金1億9百万円が含まれているため差額が発生しています。

科学技術振興調整費「国際統合医療研究・人材育成拠点の創成」を受託したほか、公的補助金（競争的研究資金を含む）を積極的に獲得したことにより予算を上回りました。

支出の部

| 科 目       | 20年度予算  | 20年度決算 | 差 額   |
|-----------|---------|--------|-------|
| 人件費支出     | 39,513  | 38,210 | 1,303 |
| 教育研究経費支出  | 35,846  | 34,981 | 865   |
| 管理経費支出    | 2,966   | 2,842  | 124   |
| 借入金等利息支出  | 367     | 299    | 67    |
| 借入金等返済支出  | 9,429   | 9,733  | 304   |
| 施設関係支出    | 4,157   | 1,501  | 2,655 |
| 設備関係支出    | 3,380   | 1,985  | 1,395 |
| 資産運用支出    | 4,030   | 2,891  | 1,138 |
| その他の支出    | 13,447  | 13,353 | 94    |
| 資金支出調整勘定  | 11,047  | 9,554  | 1,493 |
| 次年度繰越支払資金 | 1,565   | 2,289  | 723   |
|           |         |        |       |
|           |         |        |       |
|           |         |        |       |
| 合 計       | 103,655 | 98,533 | 5,122 |

重点施策に沿ったプロジェクトを中心に選別し、重点的に配分する一方、経費削減を推し進めた結果、予算を下回る結果となりました。

予算額に対して老朽化に伴う建物修復費、第1病棟建設費用に対する支払いが少なかったため、予算を下回る結果となりました。

資金収入は大きく未達となりましたが、経費削減を進めた結果、次年度支払資金は予算に対して、7億2千万円上回りました。

(注記)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示。



## 3. 貸借対照表

資産の部 (単位：百万円)

| 科 目         | 本年度末    | 前年度末    | 差 額   |
|-------------|---------|---------|-------|
| 固定資産        | 95,307  | 98,108  | 2,800 |
| 土 地         | 21,262  | 21,267  | 5     |
| 建 物         | 44,693  | 46,957  | 2,263 |
| 構 築 物       | 1,241   | 1,401   | 159   |
| 教育研究用機器備品   | 9,109   | 10,515  | 1,406 |
| 図 書         | 1,320   | 1,300   | 19    |
| 建設仮勘定       | 1,831   | 1,001   | 830   |
| その他の固定資産    | 15,848  | 15,664  | 184   |
| 流動資産        | 17,282  | 18,463  | 1,180 |
| 現 金 預 金     | 2,289   | 2,422   | 133   |
| 未 収 入 金     | 11,862  | 12,328  | 465   |
| そ の 他 貯 蔵 品 | 427     | 405     | 21    |
| その他の流動資産    | 2,703   | 3,306   | 603   |
| 合 計         | 112,590 | 116,571 | 3,981 |

機器備品については、新規購入額を当年度減価償却額が上回ったため、前年度より14億円減少しました。

平成21年に完成予定の第1病棟建築費用支払いによる増加です。

期末における有価証券評価損5億8千8百万円計上による減少です。

負債の部

| 科 目          | 本年度末    | 前年度末    | 差 額   |
|--------------|---------|---------|-------|
| 固定負債         | 33,979  | 35,848  | 1,869 |
| 長 期 借 入 金    | 12,341  | 15,470  | 3,128 |
| 学 校 債        | 2,328   | 1,389   | 938   |
| 退職給与引当金      | 19,108  | 18,829  | 279   |
| 長期未払金        | 200     | 159     | 41    |
| 流動負債         | 17,266  | 17,405  | 138   |
| 短期借入金        | 5,378   | 3,932   | 1,446 |
| 学 校 債        | 796     | 1,176   | 380   |
| 未 払 金        | 8,998   | 9,886   | 888   |
| その他の流動負債     | 2,093   | 2,410   | 316   |
| 負債の部合計       | 51,246  | 53,254  | 2,008 |
| 基本金の部合計      | 156,864 | 149,904 | 6,959 |
| 翌年度繰越消費支出超過額 | 95,520  | 86,587  | 8,932 |
| 合 計          | 112,590 | 116,571 | 3,981 |

借入金については前年度末より16億8千2百万円圧縮しました。

学校債は20年度より新規に募集した5年校債による増加です。

(注記) 減価償却累計額

資産の部合計から負債の部合計を差し引いた正味財産(自己資産)は、613億4千4百万円となり、平成19年度末より19億7千2百万円の減少となりました。

|         |        |        |       |
|---------|--------|--------|-------|
| 正 味 財 産 | 61,344 | 63,317 | 1,972 |
|---------|--------|--------|-------|

(注記) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示。

## 主要財務比率表

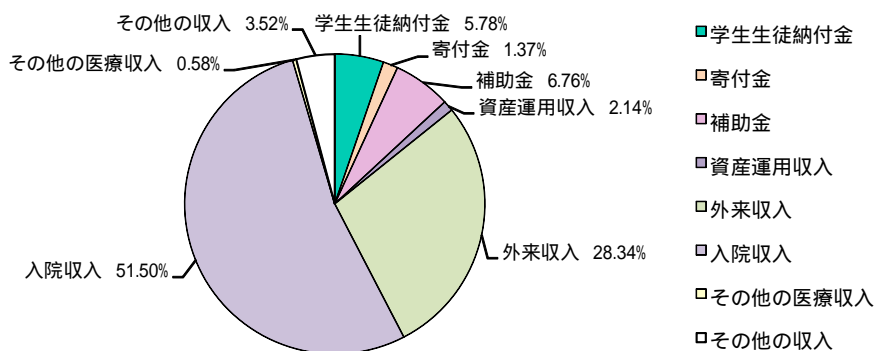
(単位：%)

| 比 率                              | 算 式 (×100)                                       | 16年度  | 17年度  | 18年度  | 19年度  | 20年度  |
|----------------------------------|--|-------|-------|-------|-------|-------|
| 人件費比率<br>⬇                       | $\frac{\text{人 件 費}}{\text{帰 属 収 入}}$            | 48.6  | 49.1  | 49.3  | 48.2  | 47.0  |
| 人件費の帰属収入に対する割合を示す比率。             |  |       |       |       |       |       |
| 教育研究経費比率<br>⬇                    | $\frac{\text{教 育 研 究 経 費}}{\text{帰 属 収 入}}$      | 49.2  | 49.3  | 51.8  | 50.5  | 49.9  |
| 教育研究経費の帰属収入に対する割合を示す比率           |  |       |       |       |       |       |
| 管理経費比率<br>⬇                      | $\frac{\text{管 理 経 費}}{\text{帰 属 収 入}}$          | 4.3   | 4.2   | 4.4   | 4.3   | 4.2   |
| 管理経費の帰属収入に対する割合を示す比率             |  |       |       |       |       |       |
| 学生生徒等納付金比率                       | $\frac{\text{学 生 生 徒 等 納 付 金}}{\text{帰 属 収 入}}$  | 6.1   | 5.8   | 5.8   | 5.4   | 5.3   |
| 学生生徒納付金の帰属収入に対する割合を示す比率          |  |       |       |       |       |       |
| 寄付金比率                            | $\frac{\text{寄 付 金}}{\text{帰 属 収 入}}$            | 1.6   | 2.0   | 1.4   | 1.4   | 1.6   |
| 寄付金の帰属収入に対する割合を示す比率              |  |       |       |       |       |       |
| 補助金比率                            | $\frac{\text{補 助 金}}{\text{帰 属 収 入}}$            | 6.4   | 7.0   | 6.8   | 7.1   | 6.2   |
| 補助金の帰属収入に対する割合を示す比率              |  |       |       |       |       |       |
| 医療収入比率                           | $\frac{\text{医 療 収 入}}{\text{帰 属 収 入}}$          | 82.3  | 80.0  | 80.4  | 80.3  | 81.6  |
| 医療収入の帰属収入に対する割合を示す比率             |  |       |       |       |       |       |
| 基本金組入率<br>⬆                      | $\frac{\text{基 本 金 組 入 額}}{\text{帰 属 収 入}}$      | 9.8   | 7.9   | 7.4   | 7.9   | 8.5   |
| 帰属収入のうちどれだけ基本金を組入れたを示す比率         |  |       |       |       |       |       |
| 固定比率<br>⬇                        | $\frac{\text{固 定 資 産}}{\text{自己資金(基本金+消費収支差額)}}$ | 129.9 | 139.6 | 149.4 | 154.9 | 155.4 |
| 固定資産が外部負債に頼らず取得されているかを見ることができる比率 |  |       |       |       |       |       |
| 流動比率<br>⬆                        | $\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}}$          | 163.7 | 120.2 | 118.2 | 106.1 | 100.1 |
| 短期的な支払能力を見ることができる比率              |  |       |       |       |       |       |
| 総負債比率<br>⬇                       | $\frac{\text{総 負 債 債}}{\text{総 資 産}}$            | 37.5  | 40.9  | 44.7  | 45.7  | 45.5  |
| 総資産に対する他人資金に対する依存度を見ることができる比率    |  |       |       |       |       |       |
| 負債率<br>⬇                         | $\frac{\text{総 負 債 - 前 受 金}}{\text{総 資 産}}$      | 35.9  | 39.3  | 43.3  | 44.3  | 44.4  |
| 他人資金が自己資金を上回っていないかどうかを見ることができる比率 |  |       |       |       |       |       |
| 前受金保有率<br>⬆                      | $\frac{\text{現 金 預 金}}{\text{前 受 金}}$            | 356.4 | 298.7 | 251.5 | 148.1 | 177.3 |
| 前受け金の現・預金に対する割合を示す比率             |  |       |       |       |       |       |
| 基本金比率<br>⬆                       | $\frac{\text{基 本 金}}{\text{基 本 金 要 組 入 額}}$      | 92.4  | 89.9  | 89.0  | 89.1  | 91.1  |
| 要組入額に対する組入済基本金の割合を示す比率           |  |       |       |       |       |       |

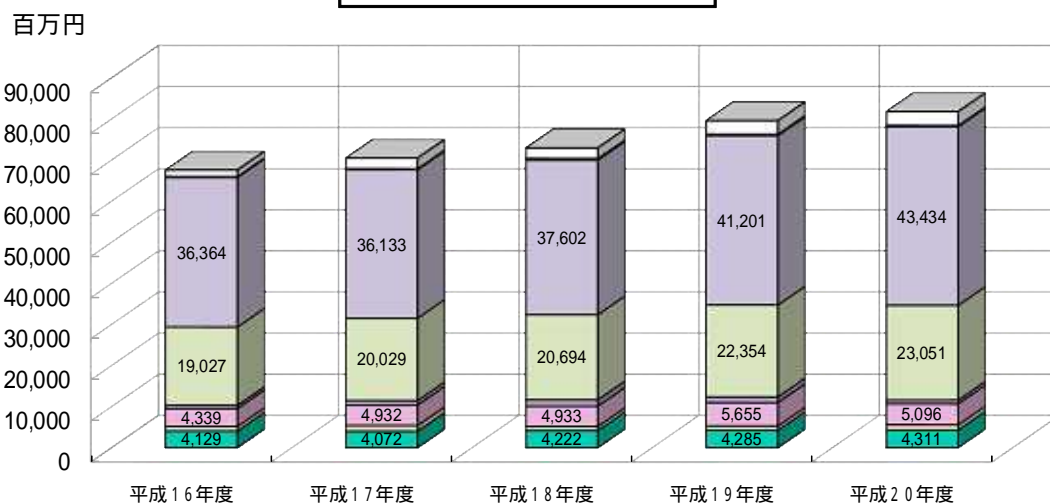
⬇ : 高い値が望ましい ⬆ : 低い値が望ましい



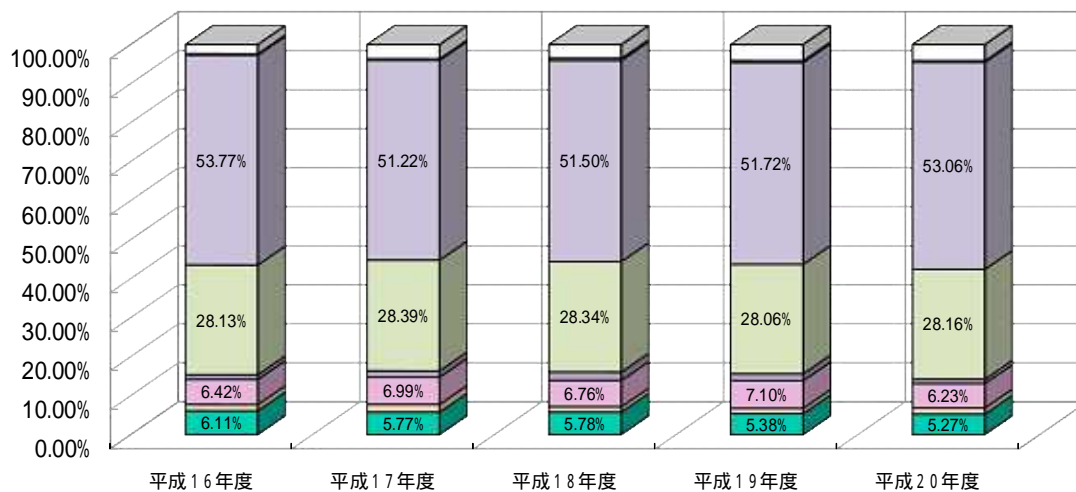
平成20年度 帰属収入の内訳 (%)



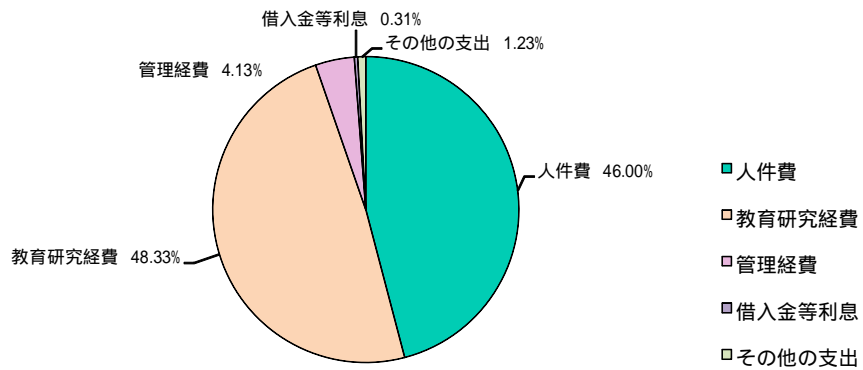
帰属収入の推移



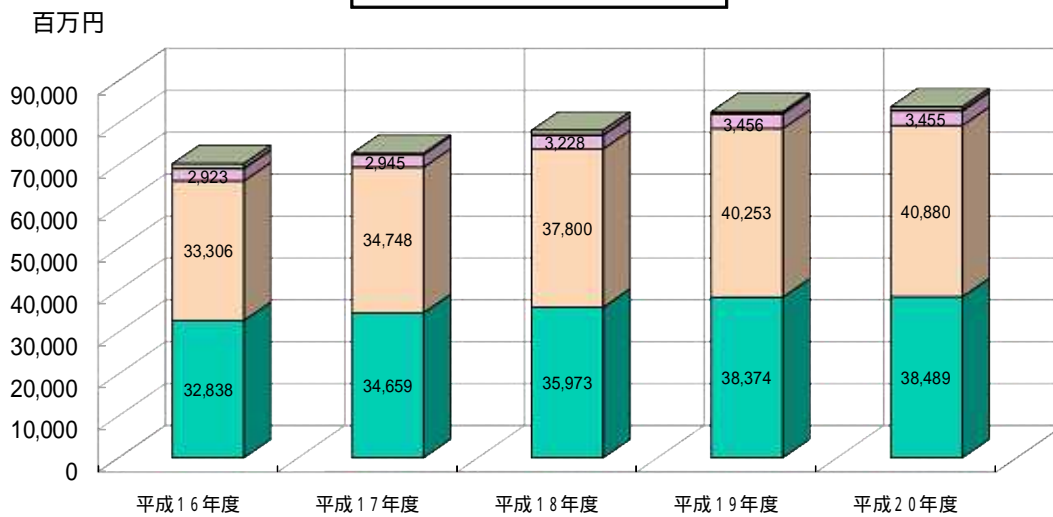
帰属収入構成比率の推移



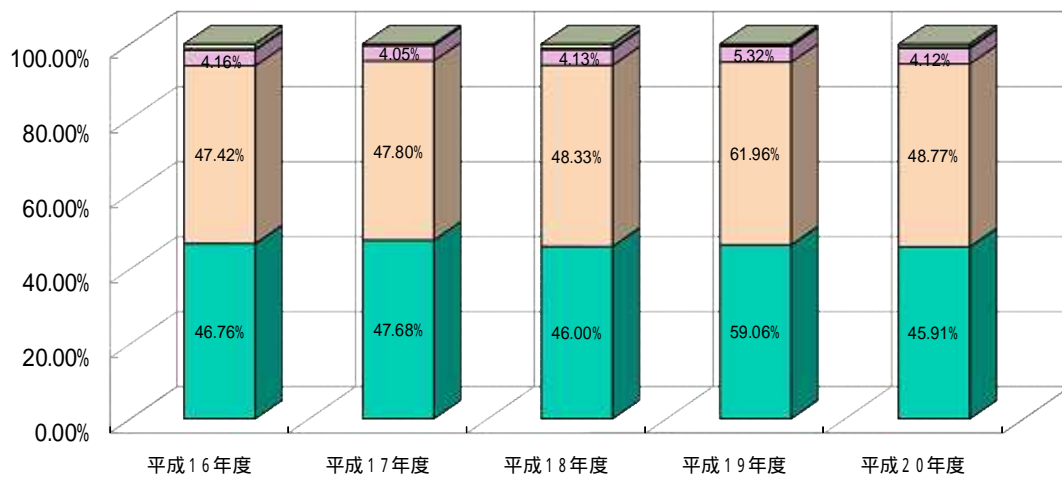
平成20年度 消費支出の内訳 (%)



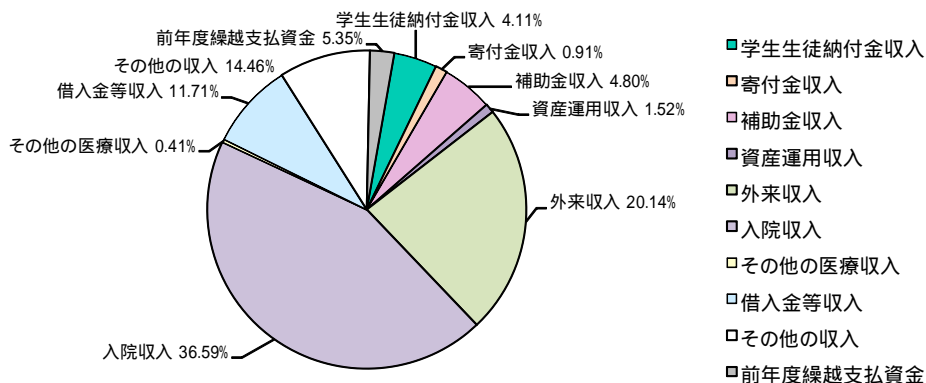
消費支出の推移



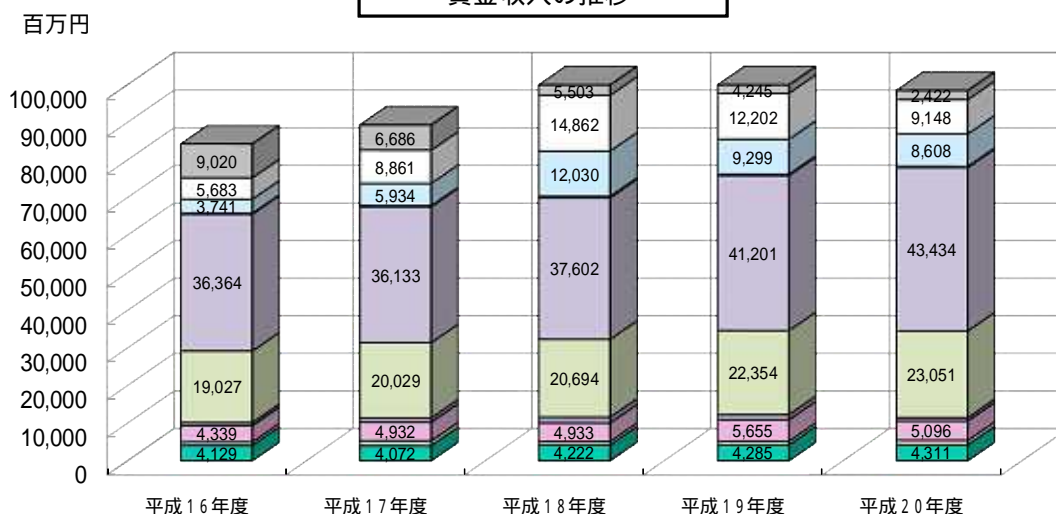
消費支出構成比率の推移



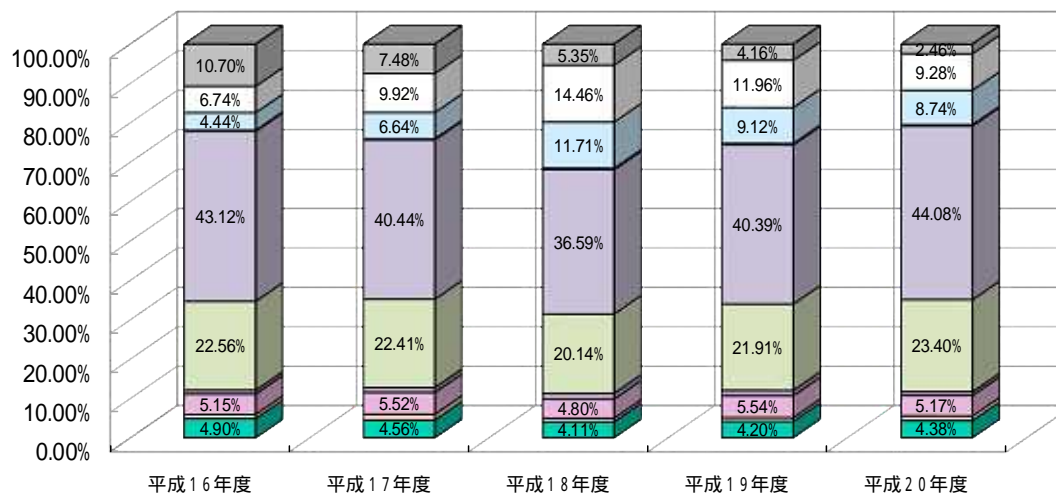
平成20年度 資金収入の内訳 (%)



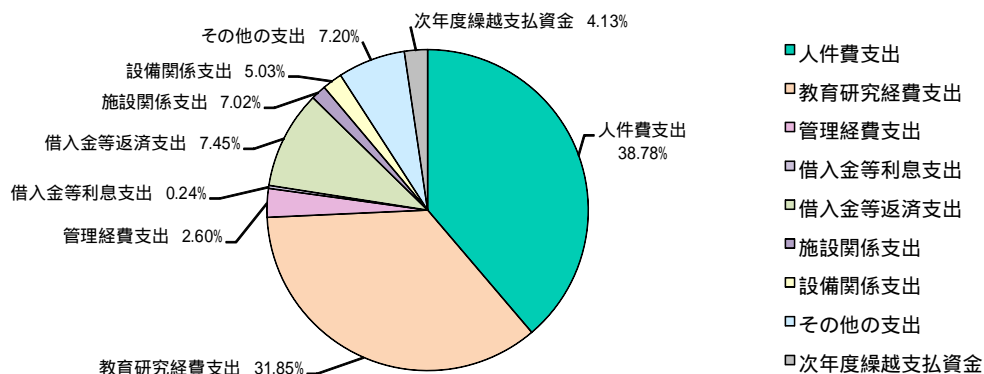
資金収入の推移



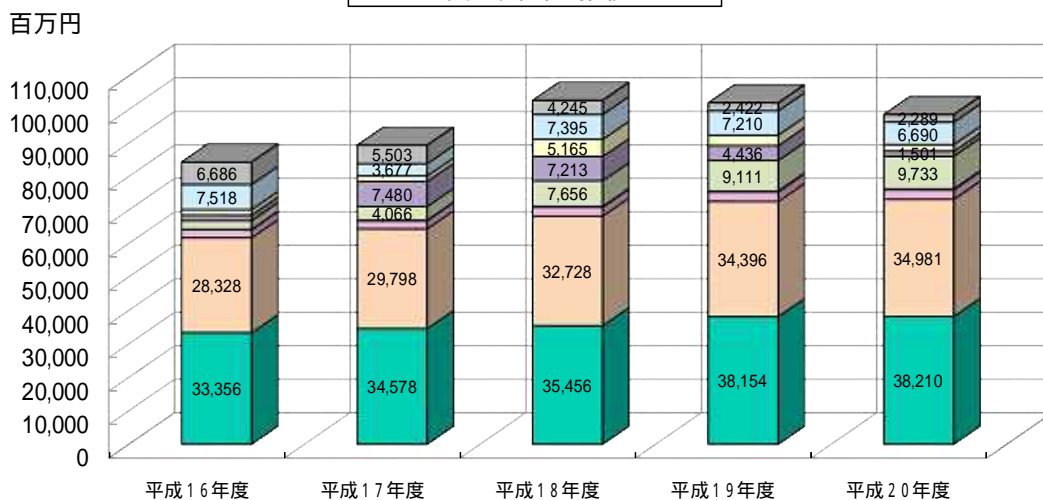
資金収入構成比率の推移



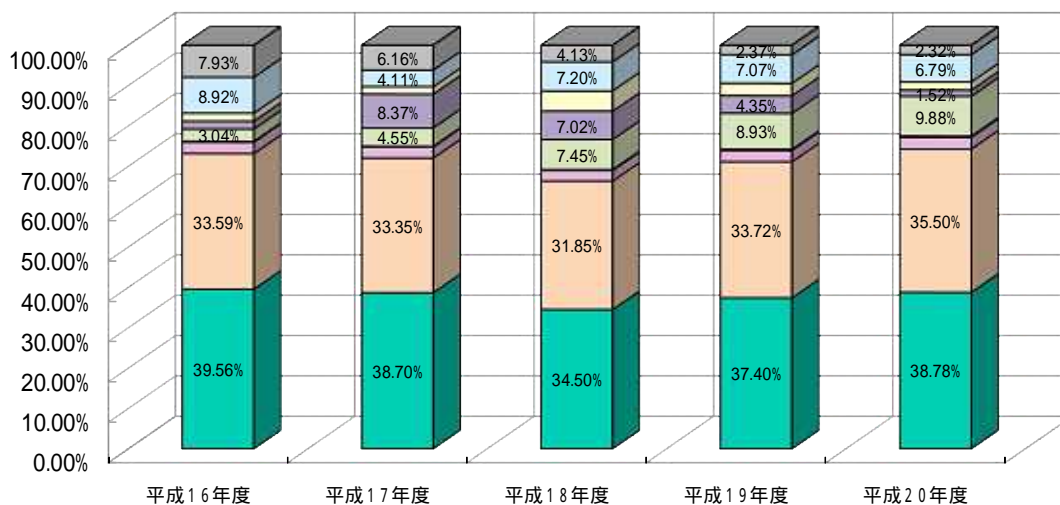
平成20年度 資金支出の内訳 (%)



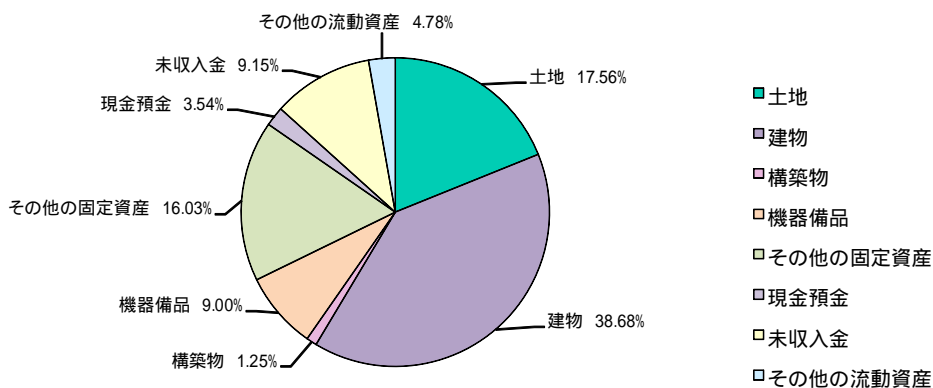
資金支出の推移



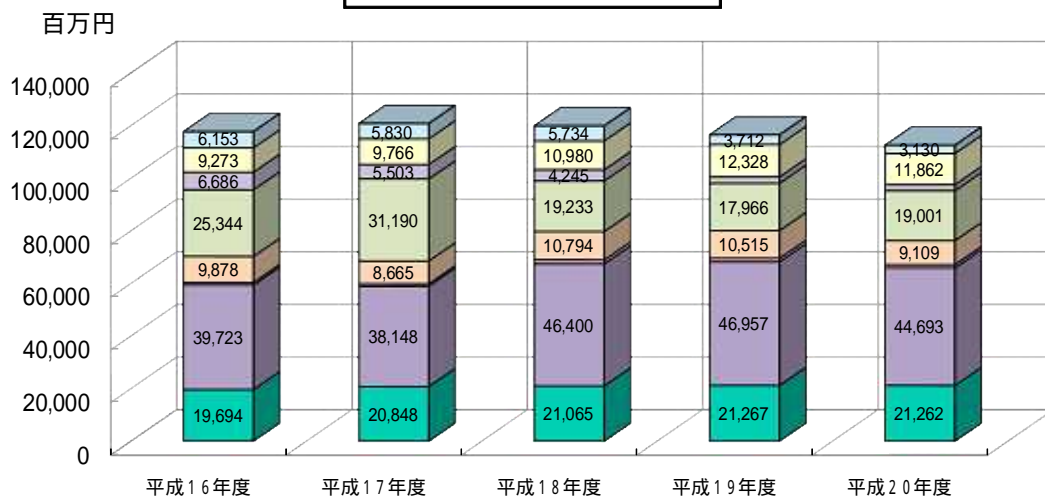
資金支出構成比率の推移



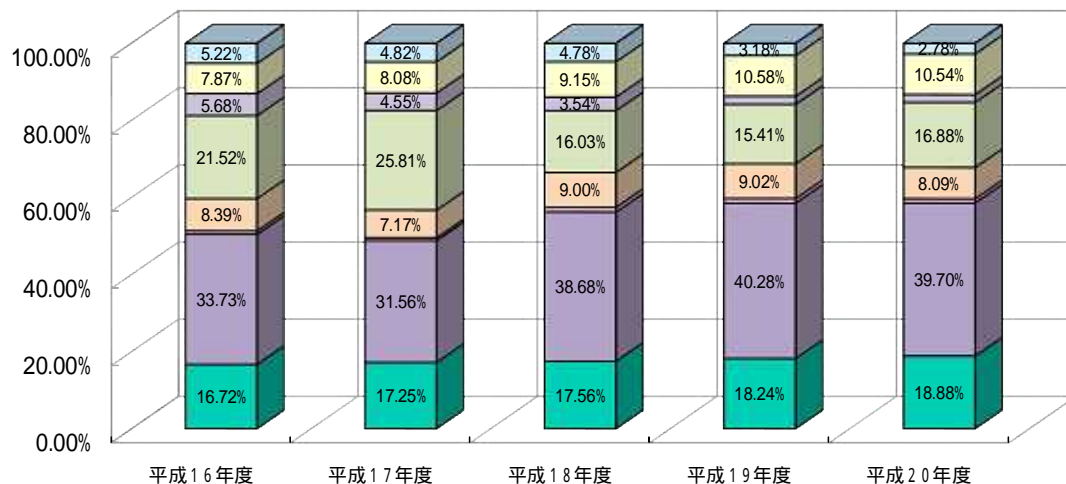
平成20年度 資産の内訳 (%)



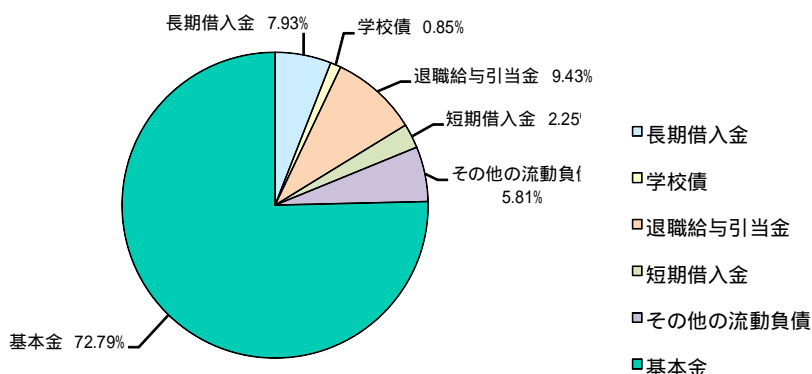
資産の推移



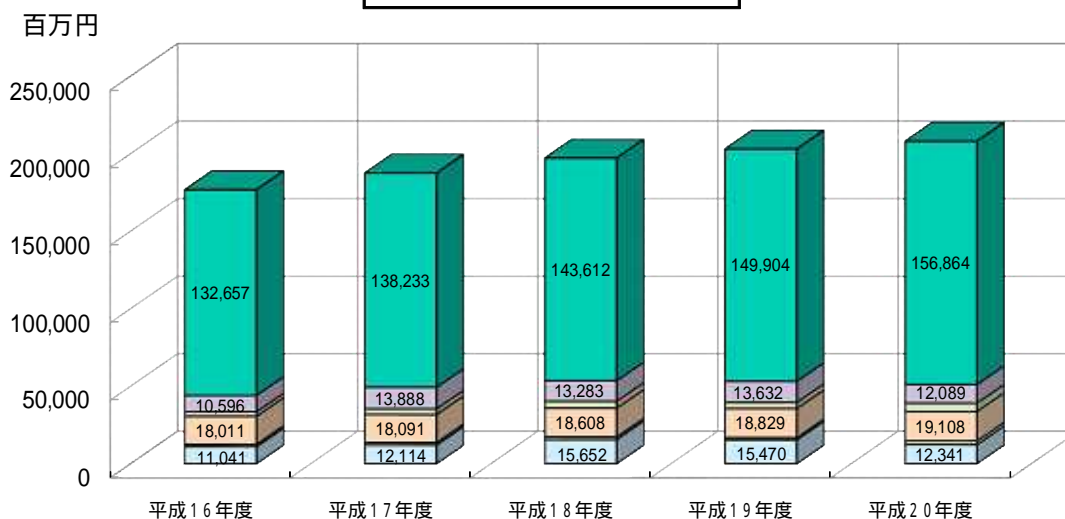
資産構成比率の推移



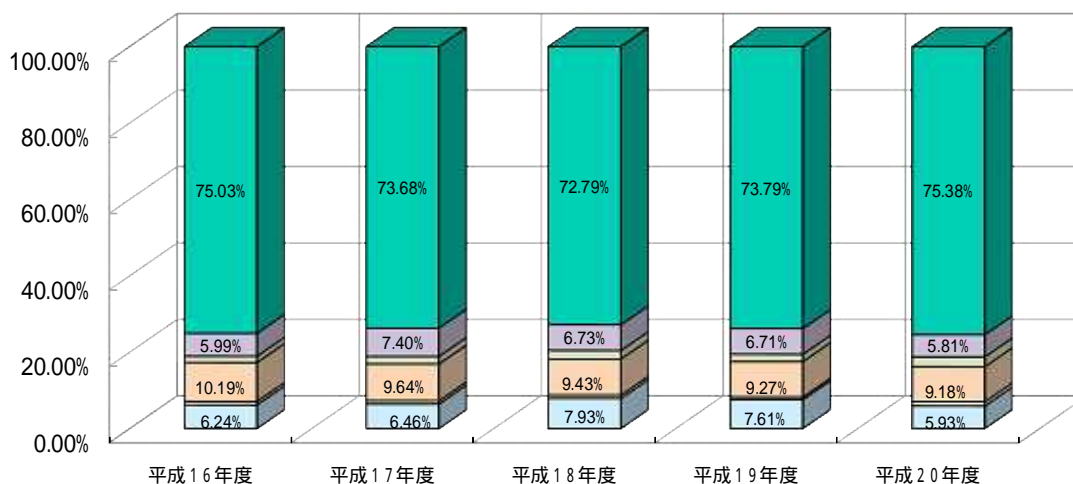
平成20年度 負債及び基本金の内訳(%)



負債及び基本金の推移



負債及び基本金構成比率の推移



学校法人 **東京女子医科大学**

〒162-8666 東京都新宿区河田町8番1号

TEL 03(3353)8111(代表)

<http://www.twmu.ac.jp/>